

月一八日宣言

◎(大判) 苟モ自己ノ過失ニ因リ他人ノ死亡ニ對シテ一ノ條件ヲ與ヘタル以上ハ其過失カ該結果ニ對シ唯一ノ原因ヲ成シタルト將タ他人ノ過失ト相俟テ共同的ニ原因ヲ與ヘタルト中間ハス等シク過失致死ノ罪責ヲ負フ可キモノトス(四三年九一五八八號同年九月三〇日宣言)

第二百一十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

◎(獨逸帝國裁判所判決) 一、業務執行ニ間接ニシテ且ツ從屬スル行為モ亦職業上ノ行為ト解スヘキモノトス二、醫術上其爲スヘキコトヲ爲サズシテ人ヲ死ニ致スガ如キハ業務上必要ナル注意ヲ怠リ人ヲ死ニ致シタルモノナリ三、醫師カ醫學ノ命スル所ニ反スル處置ヲ爲シタルカ爲人ヲ死ニ致シタル場合亦同シ四、醫師カ患者ニ對シ不相當ナル處置ヲ爲シタル場合ニ於テ若シ醫師自ラ一定ノ病人ニ對シ施スヘキ相當ノ處置ヲ施スノ智能ヲ有セザリシコトヲ知了シタルト認メ得ヘキ場合ニ在リテハ直ニ之ヲ以テ醫師ニ罪責アル行為ナリト認メ得ヘキモノトス

第二十九章 墮胎ノ罪

第二百一十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百一十八條 懷胎ノ婦女墮胎ヲ爲シ又ハ其胎兒ヲ殺シタルトキハ五年以上ノ懲役ニ處ス

減輕スヘキ情狀アルトキハ六月以上ノ禁錮ニ處ス婦女ノ承諾ヲ得テ墮胎若クハ其胎兒殺害ノ方法ヲ實行セシメ、又ハ之ヲ實行シタル者亦前項ニ同シ

(舊刑三三〇)

◎(大判) 胎兒カ産門ヨリ其顛頂部ヲ現ハシ將ニ出產セントスル際兩手ヲ産門ニ挿入シ胎兒ノ鼻口ヲ壓迫シ之ヲ死ニ致シ其顛頂部ヲ擡ミ引出シタル所爲ハ嬰兒殺ニ非スシテ墮胎罪ナリトス(三六年一一一九頁)

◎(大判) 墮胎罪ハ自然ノ分娩期ニ先チ人爲ヲ以テ母體ヨリ分離セシムルニ依リ成立ス其結果胎兒カ死亡セルト否トハ犯罪ノ成立ニ關係ナシ犯罪ノ終リタル後尙産兒カ生息スルチ見テ之ヲ殺ストキハ墮胎及故殺ノ二罪成立ス(三九年八四九頁)

◎(大判) 胎内ニ於テ胎兒ヲ殺シ胎外ニ排出セシムルノ行為ハ墮胎罪ノ構成ヲ妨ケス(三六年一一一九頁)  
◎(獨逸帝國裁判所判決) 墮胎罪ハ胎兒ノ生命ヲ害スルヲ以テ要件トナス故ニ本罪ノ既遂ハ胎兒ノ死亡若ハ早産ニ依リ出生シタル嬰兒ノ死亡シタル時ニアルモノトス

◎(大判) 一、婦女ノ身體ニ手術ヲ爲シテ墮胎セシメタル者ノ行為ト其手術ヲ受ケ墮胎シタル婦女ノ行為トハ全然別個ノ行為ナルカ故ニ法律上別罪トシテ之ヲ處分スヘキモノトス二、墮胎罪ハ自然ノ分娩期ニ先チ人爲ヲ以テ母體ヨリ胎兒ヲ分離セシムルニ因テ成立ス而シテ其胎兒カ死亡スルト否トハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ボサス(四二年九一一八五號同年一〇月一九日宣言)

第二百一十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ

第二百一十九條 墮胎又ハ其胎兒ヲ殺害スル懷胎ノ婦女ニ對シ報酬ヲ



得テ其ノ方法ヲ指示シ、之ヲ實行セシメ、又ハ之ヲ實行シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

**第二百二十條** 懷胎ノ婦女ニ對シ其承諾ヲ得ヌ又ハ其意ニ反シテ墮胎セシメ、又ハ其胎兒ヲ殺シタル者ハ二年以上ノ懲役ニ處ス  
因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ十年以上ノ懲役又ハ無期懲役ニ處ス

**第二百二十條第三項** 懷胎ノ婦女ニ對シ其承諾ヲ得ヌ又ハ其意ニ反シテ墮胎セシメ、又ハ其胎兒ヲ殺シ因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ十年以上ノ懲役又ハ無期懲役ニ處ス

**第二百二十一條** 扶助ヲ要ス可キ幼者、不具者病者ヲ遺棄シタル者又ハ此等ノ者ヲ監督、保護、護送、收容ス可キトキ故意ニ之ヲ爲ササル者ハ三月以上ノ禁錮ニ處ス

墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三三一)

○(獨逸帝國裁判所判決) 妊娠ノ承諾ヲ得テ墮胎ヲ爲ス場合ニ於テ妊娠力墮胎ノ實行行爲ニ關與セス單ニ他人ノ爲メ墮胎行爲ヲ認容シタルニ止マルトキハ妊娠ハ墮胎行爲ノ實行ヲ容易ナラシメタルモノニシテ從犯ナリトス

**第二百十四條** 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三三二)

**第二百十五條** 婦女ノ囑託ヲ受ケヌ又ハ其承諾ヲ得ヌシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(舊刑三三三、三三四)

**第二百十六條** 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス(舊刑三三五)

○(大判) 墮胎ノ行爲ヲ爲シタルノ結果胎兒ノ死亡若ハ早産アルニ先テ妊娠ノ死亡アリタルトキニ於テモ尙墮胎ニ因ル致死ト謂フコトヲ得ヘシ(三〇年九卷九八頁)

**第三十章 遺棄ノ罪**

**第二百十七條** 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三三六乃至三三八)

- (獨逸帝國裁判所判決) 泥酔者ハ一ノ病者ナリ
- (大判) 幼者又ハ老疾者ノ遺棄罪 舊刑三三六ハ保護ノ義務アル者ニ非サレハ之ヲ當行セス(二九年一一卷四七頁)
- (大判) 遺棄罪(舊刑三三九)ハ被害者ニ對シ保護ノ責任ヲ負擔スル場合ニ非サレハ成立セス(二五年四卷一一二頁)
- (獨逸帝國裁判所判決) 一、遺棄トハ救護ヲ期行スル能サル場所ニ移スチ云フニ、行爲者ニシテ救護セラル可シト確信シタル場合ニハ之ニ遺棄罪アリト言フ能ハス

**第二百十八條** 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキ

父母、其子ニ對シ前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ六月以上ノ禁錮ニ處ス  
因テ人ヲ重キ身體傷害ニ致シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ三年以上ノ懲役ニ處ス

**第二百二十一條第三項** 父母、其子ヲ遺棄シ、又ハ監督、保護、護送、收容ス可キトキ故意ニ之ヲ爲サス因テ重キ身體傷害ニ致シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス、死ニ致シタルトキハ三年以上ノ懲役ニ處ス



ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三三六乃至三三八、三六三)

**第二百二十一條第三項** 父母、其子ヲ遺棄シ、又ハ監督、保護、護送收容ス可キトキ故意ニ之ヲ爲サス因テ重キ身體傷害ニ致シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處シ、死ニ致シタルトキハ三年以上ノ懲役ニ處ス

**第二百十九條** 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス(舊刑三三九)

**第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪**

**第二百十九條** 不法ニ人ヲ逮捕シ、又ハ其他ノ方法ヲ以テ人ヲ拘禁シタル者ハ監禁ニ處ス拘禁ノ期間一週ヲ超ユルトキ、又ハ拘禁ノ際若クハ拘禁中ニ爲シタル行爲ニヨリ被害者ヲ重キ身體傷害ニ致シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

**第二十條** 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

減輕ス可キ情狀アルトキハ一月以上ノ監禁ニ處ス  
拘禁ノ際若クハ拘禁中ニ爲シタル行爲ニヨリ被害者ヲ死ニ致シタルトキハ三年以上ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三三二、三三三、三三六)

減輕ス可キ情狀アルトキハ三月以上ノ監禁ニ爲ス

**第二十一條** 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス(舊刑三二四、三二五)

◎(大判) 刑法ニ於テ某罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷スト規定セルハ某罪ノ刑ト傷害

罪ノ刑ト比較シテ重キ刑ヲ規定スル罰條ヲ適用處斷スヘシトノ謂ヒニシテ必スシモ重キ刑ヲ科スヘシトノ趣旨ニ非ス故ニ傷害罪ニ付テハ懲役又ハ罰金若クハ科料ノ選擇刑中最モ重キ懲役刑ヲ以テ對照ノ刑ト爲シ之ト某罪ノ刑トヲ比較シ其輕重ヲ定メ因テ適用ス可キ重キ法條ヲ定ムルコトヲ要ス(四二年レ一八三號同年一月三日宣告)

**第三十二章 脅迫ノ罪**

**第二百二十六條** 公共ノ危難ヲ生ス可キ重罪ヲ犯スコトヲ強迫シ公共ノ安寧ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ監禁ニ處ス

**第二十二條** 生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シテ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シテ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ(舊刑三二六乃至三二九、三六三)

◎(大判) 脅迫罪(刑法三二二條)ハ同條ニ列記シタル法益ニ對シテ危險ノ至ルヘキコトヲ不法ニ通告スルニ因リ成立シ必スシモ被害者ニ於テ畏怖ノ念ヲ起シタルコトヲ要セス次ニ人ノ生命財產ニ對シテ害ヲ加フヘキコトヲ不法ニ通告シタル以上ハ縱令虛無人ノ名義ヲ用ウルモ脅迫罪ノ成立ヲ妨ケス(四三年レ二〇八四號同年一月一日宣告)

**第二百四十四條** 暴行ヲ加ヘ又ハ重罪輕罪タルヘキ行爲ヲ爲サント強迫シ不法ニ他人ヲシテ或ル事ヲ爲サシメ、若クハ爲サ、ラシメ又

**第二十三條** 生命、身體、自由、名譽若クハ財產ニ對シテ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行



ハ之ヲ背ンセシメタル者ハ一年以上ノ禁錮又ハ九百「マーク」以下ノ罰金ニ處ス  
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ  
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三四一、三四二)

○(獨逸帝國裁判所判決) 略取及ヒ誘拐罪ハ略取誘拐又ハ賣買ノ結果タル被拐取者ニ對スル實力上ノ支配力解除セラレサル間ハ繼續ス故ニ此罪ハ所謂繼續犯ナリ

○(獨逸帝國裁判所判決) 未成年者ノ自由ハ未成年者ニ對スル拐取罪ノ法益タルカ故ニ未成年者ハ本罪ノ共犯タルヲ得サルモノトス

○(大判) 刑法三四二條(舊)ノ誘拐罪ハ偽計其他人ヲ錯誤ニ陥ラシムルノ手段ヲ以テ十二歳以上二十歳未満ノ幼者ヲ他ニ伴行シ之ヲ威匿若ハ他ニ交付スルニ因リ成立ス而シテ其手段ハ必スシ

第二百三十四條

人ヲ遺棄シ若クハ之ヲ賣買、奴隸トシ又ハ外國ノ軍役若クハ船員ニ就カシムル爲メ偽計若クハ暴行強迫ヲ以テ之ヲ略取シタル者ハ拐取ノ罪トシ懲役ニ處ス

第二百三十五條

偽計又ハ暴行強迫ヲ以テ幼者ヲ其父母、後見人、養育者ヨリ奪取シタル者ハ禁錮ニ處シ、若シ乞丐、營利、猥褻ノ目的若クハ業務ニ使用スルノ意ニ出テタルモノナルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六條

猥褻ノ行爲ヲ爲サシメンカ爲メ其意ニ反シ偽計又ハ暴行強迫ヲ以テ婦女ヲ拐取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處シ若シ婚姻ヲ爲サンカ爲メ拐取シタルトキハ禁錮ニ處ス  
本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百三十七條

父母、後見人、養育者ノ承諾ヲ得サルニ拘ハラヌ未タ婚姻ヲ爲ササル幼女ニ對シ其ノ許諾ヲ得テ猥褻ノ行爲又ハ婚

姻ヲ爲ス爲之ヲ誘拐シタル者ハ禁錮ニ處ス本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

モ幼者ニ對シテノミ現實之ヲ行ヒタルコトヲ要セス幼者ヲ監督スル者ニ對シテ之ヲ施シタル場合ト雖亦犯罪ヲ構成スルニ妨ナシ(四一年七七六頁)

○(大判) 未成年者ノ略取罪(刑法二三四條)ハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ不法ニ幼者ヲ自己ノ實力内ニ移シ一方ニ於テ監督者ノ監督權ヲ侵害スルト同時ニ他方ニ於テハ幼者ノ自由ヲ拘束スル所爲ナリトス(四三年九一五二六號同年九月三〇日宣告)

第二百二十五條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ(舊刑三四五)

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス



第二百三十八條 被誘拐者、其誘拐者ト婚姻ヲ爲シタルトキハ其婚姻ノ無效ヲ宣告セラレタル後ニ非サレハ其罪ヲ論スルコトヲ得ス

第二百三十五條 人ヲ誹毀シタル者ハ六百「マーク」以下ノ罰金、又ハ拘留若クハ一年以下ノ罰金、又ハ拘留、若クハ一年以下ノ禁錮ニ處ス、若シ暴行ヲ以テ犯シタルトキハ千五百「マーク」以下ノ罰金、又ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百三十六條 他人ニ對シテ之ヲ蔑視ス可キ事實、又ハ公衆ヨリ輕侮ヲ受ク可キ事實ヲ唱導シ、若クハ流布シタル者其事實ノ眞實ナルコトヲ證明スル能ハサルトキハ誹毀ノ罪トシ六百「マーク」以下ノ罰金、又ハ拘留、又ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス、若シ公然文章圖畫

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
(舊刑三四三)

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限リ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ(舊刑三四四)

第三十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
死者ノ名譽ヲ損毀シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス(舊刑三五八、三五九、三六三)

◎(六判) 新聞紙上ノ記事ヲ以テ誹毀セラレタル者カ責任者ノ何人ナルカヲ確知シ能ハサル場合ニ告訴ヲ提起スルハ其責任者

若クハ記事ヲ頒布シテ之ヲ犯シタル者ハ千五百「マーク」以下ノ罰金、又ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百二十七條 不實ナルコトヲ知リテ他人ニ對シテ之ヲ蔑視ス可キ事實、公衆ヨリ輕侮ヲ受ク可キ事實若クハ其信用ヲ害スル事實ヲ唱導シ、又ハ流布シタル者ハ誣罔誹毀ノ罪ニヨリ二年以下ノ禁錮ニ處ス、若シ公然文章、圖畫若クハ記事ヲ頒布シテ之ヲ犯シタルトキハ一月以上ノ禁錮ニ處ス

減輕スヘキ情狀アルトキハ一日ノ禁錮ニ下シ又ハ九百「マーク」以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

第二百二十九條 不實ナルコトヲ知リテ死者ニ對シ其生存スルニ於テハ之ヲ蔑視シ、又ハ公衆ノ輕侮ヲ受クヘキ事實ヲ唱導シ、若クハ流布シタル者ハ六月以下ノ禁錮ニ處ス

減輕スヘキ情狀アルトキハ九百「マーク」以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十四條 誹毀ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス。但告訴(第百八十五條乃至第百九十二條)ハ之ヲ取下クルコトヲ得

第二百九十六條 官廳、官吏、宗教ノ職ニ在ル者、若クハ軍隊ニ於ケル軍人軍屬其職務ヲ行ヒ又ハ行ハントスル際ニ於テ誹毀セラレタルトキハ其直接ノ關係者ノ外長官ハ告訴ヲ爲ス權ヲ有ス

◎(獨逸帝國裁判所判決) 凡人類ハ社會上ニ於ケル名譽ノ有無ヲ問ハス人類トシテ有スル名譽ヲ害セラレサル權利ヲ有ス而シテ人ノ名譽權ハ出生ト同時ニ始マルモノニシテ嬰兒若ハ精神病者ト雖此罪ノ客體タルコトヲ得

◎(大判) 新聞紙ニ掲載セシ記事カ常人トシテ醜行ト爲ラサルモ被害者ニ特別ノ身分アルカ爲其名譽ヲ毀損ス可キモノナルトキハ其記事ハ其人ノ醜行ト爲ルヲ以テ誹毀罪ヲ構成ス(三四年一卷一〇五頁)

◎(六判) 刑法三五八條(舊)ノ人ヲ誹毀シタル者ハ云々トアル人トハ唯有形人ヲ指スノミナラス無形人ヲモ包含スルモノトス故ニ各人ノ集合ヨリ團結スル所ノ會社等ヲ誹毀スルニ於テハ同條ノ制裁ヲ受ケサル可カラズ(二五年一卷九九頁)

◎(大判) 明治三二年法律二八號ニ所謂公然トハ秘密ニ對スルノ語ニシテ秘密ナラサル場合ハ常ニ公然ナリトス從テ公然ノ誹毀侮辱ト爲ルニハ敢テ不特定ナル多數人ニ對シテ之ヲ爲スヲ要セズ特定シタル少數人ニ對スル場合ト雖苟モ其行爲ノ秘密ナラサル以上ハ公然ノ誹毀侮辱ナリ(三六年一八七頁)

◎(大判) 明治三二年法律二八號議會及議員保護ニ關スル罰則第二條ニ所謂公然ノ侮辱トハ議員ノ名譽ヲ毀損ス可キ旨語文書



ハ第三者カ被害者ト利害ヲ同ウスルヤ否ヤハ侮辱罪ノ成立ヲ定ムルノ標準ト爲ルモノニ非ス(三七年一七七八頁)

◎(大判) 一、總テ誹毀罪ヲ構成スルニハ故意ノ存在ヲ必要トス(二七年一卷二頁)

◎(大判) 人ノ輒行ヲ摘發シタル者ハ其事實ノ有無ニ拘ラス誹毀罪ノ犯人トシテ刑罰ノ制裁ヲ受ケサル可カラズ從テ或人カ現ニ惡事醜行ヲ爲シタル場合ト雖之ヲ指摘シテ社習公衆ニ知ラシムルノ所爲ハ誹毀罪ヲ構成スニ、新聞紙條例二五條(舊)ニ所謂私行トハ各人カ一個人トシテノ行動上ニ於テ爲ス所ノ總テノ行爲ヲ謂フ而シテ其行爲ノ犯罪ヲ構成スルヤ又其行爲ノ他人ノ利害ニ影響ヲ及ボスヤ否ヤハ之ヲ問ハサルモノトス(三六、一〇〇頁)

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス(舊刑四二六)

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス(舊刑三六一)

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス(舊刑二六七乃至二七二)

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル

者亦前條ノ例ニ同シ(舊刑二六七乃至二七二)

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三六六乃至三七四)

◎(大判) 人ノ遺骨ハ金錢ニ換ヘ得サル物件ニ非ス又一種ノ有價物ナリ既ニ之ヲ有價物トシテ竊取スルニ於テハ竊盜罪ニ同フ可キモノトス其墳墓ヲ發掘スルカ如キハ埋骨ヲ得ンカ爲メノ手段タルニ過キササルヲ以テ特ニ刑法上ノ制裁ヲ加フ可キモノニ非ス然ルニ死屍ハ竊盜ノ目的物ト爲ラサルモノトシテ其竊盜罪ヲ無罪ト爲シ墳墓發掘罪ニ處シタルハ撰律錯誤ノ判決ナリ(二六年二卷一五頁)

◎(大判) 死者ノ骸ハ墳墓ト共ニ其相繼人又ハ承繼人ノ保有ニ屬ス從テ其竊取ノ所爲ニ對シ遺骨ノ價格ヲ算定シ竊盜罪ニ擬スルハ相ノ裁判ナリ(三十九年一〇卷一五頁)

◎(大判) 權利證明ノ證書ハ有形有價ノ動産ニシテ竊盜罪ノ目的ト爲ノコトヲ得(二八年二卷六三頁、二九年七卷五三頁)

◎(大判) 刑法上財物ノ意義ニ二アリ其廣義ニ於テハ證書類ヲ包含シ狹義ニ於テハ之ヲ包含セス而シテ刑法三九〇條(舊刑法詐欺取財)ノ財物ハ前者ニ屬シ同三七八條(舊刑法強盜)ノ財物ハ後者ニ屬スルモノトス(三六年一七六五頁)

第二百四十二條 他人ニ屬スル動産ヲ不正ニ所有スル意思ヲ以テ之ヲ奪取シタル者ハ竊盜ノ罪トシ禁錮ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十三條 左ニ掲クル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第一、建造物又ハ門戶牆壁ヲ損壞シ、踰越シ、破開シテ建造物又ハ邸宅内ヨリ盜取シタル者

第五、兇器ヲ持シタル盜取者又ハ其共犯者

第六、強盜又ハ竊盜ヲ繼續シテ行ハンカ爲メ二人以上同盟シ共ニ竊盜ヲ爲シタル者

第七、竊盜ノ意思ヲ以テ人ノ住居セル建造物内ニ忍入り、又ハ潜伏シ夜間竊盜ヲ爲シタル者、但犯罪ノ時住居者現在セザルトキ亦同シ、人ノ住居セル建造物ニ附屬セル邸宅、又ハ其邸宅内ニ存スル建造物及ヒ人ノ住居スル船舶ハ之ヲ人ノ住居セル建造物ト看做ス

減輕ス可キ情狀アルトキハ三月以上ノ禁錮ニ處ス

第二百四十九條 自己又ハ他人ノ利益ノ爲メ其所有スル動産ヲ利益者、質押者、又ハ其物件ニ付キ使用權若クハ留置權ヲ有スル者ヨリ權利ヲ害スル意思ヲ以テ奪取シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ九百「マーク」以下ノ罰金ニ處ス

禁錮ニ處スルトキハ公職ヲ剝奪スルコトヲ得



本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
 本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
 第二百四十七條第二項第三項ノ規定ハ本條ニ之ヲ適用ス  
 第二百七十條 左ニ掲ケル者ハ百五十「マルク」以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス  
 第五、直ニ消費センカ爲メ價額及ヒ分量ノ輕微ナル飲食物及ヒ嗜好品ヲ盜取セル者但シ親屬カ卑屬親ニ對シ、夫婦ノ一方カ他方ニ對シ之ヲ犯シタルトキハ之ヲ罰セス  
 第六、自己ノ獸類ヲ飼養スル爲メ殺物、其他獸類ノ飼料ニ供シ又ハ之ニ適スル物品ヲ其所有者ノ意ニ反シテ盜取シタル者  
 第五第六ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス、但シ告訴ハ之ヲ取下ケルコトヲ得

○(獨逸帝國裁判所判決) 從タル事實上ノ支配者ハ主タル事實上ノ支配者ニ對シテ竊盜罪ヲ構成セシム例ハ下婢ト主人トノ間ニ於ケルカ如シ  
 ○(大判) 委託者カ或容器ニ物品ヲ入レ鎖鑰ヲ施シ之ヲ他人ニ寄託シタル場合ニ於テハ其在申物品ノ占有ハ依然トシテ委託者ニ存スルモノトス從テ委託者ノ其容器ノ鎖鑰ヲ開キ物品ヲ取出シタル所爲ハ竊盜罪ヲ構成ス(四二年一〇二四頁、二八年四卷一〇四頁、三一年一卷四頁)  
 ○(大判) 他人ノ所有物ニ關シ其所持權ヲ侵害シテ事實上之ヲ自己ノ所持内ニ移シタルトキハ竊盜罪ハ完全ニ成立ス而シテ犯人カ占有後安全ナル場所ニ其目的物ヲ隠匿スルト否ト又其占有ヲ保持スルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ(四一年四二頁)  
 ○(獨逸帝國裁判所判決) 竊盜罪ノ構成ニハ犯人ニ於テ物ヲ領得スルノ意思アルコトヲ要スルヲ以テ若シ此意思ヲ缺如スルトキハ他人ノ物ヲ自己ノ事實上ノ支配内ニ移スノ事實カ相當ナラサル場合ニ於テモ竊盜罪ヲ成立セシムルコトナシ  
 ○(大判) 他人ノ預金通帳及ヒ印章ヲ竊取シタル行爲ト之ヲ使用シテ他ヨリ財物ヲ騙取シタル行爲トハ法律上其性質ヲ同ウセザレハ擬律ノ點ニ於テモ亦各別ニ之ヲ論スヘキモノトス(四二年九四七七號同年五月一日宣告)  
 ○(大判) 他人ヨリ侵入肥料ノ運送ヲ委託セラレタル者カ擅ニ其棧ヲ破リ又ハ結束ヲ解キ在中ノ肥料ヲ取出シタル所爲ハ竊盜罪

ヲ構成ス而シテ其肥料ヲ賣却シタル所爲ノ如キハ竊盜罪當然ノ目的ニ包含セラルルヲ以テ別罪トナラサルモノトス(四二年九一四〇九號一二月九日宣告)  
 ○(大判) 當該收稅官吏カ被告ノ密造シタル清酒ヲ押收シ樽入封印ノ儘之ニ保管セシメタルトキハ其清酒ハ依然收稅官吏ノ占有ニ屬スルモノトス從テ該物件ヲ竊取シタル被告ノ所爲ハ刑法二四二條、二三五條ノ犯罪ヲ構成ス(四二年九二二〇〇號四三年二月一五日宣告)  
 ○(大判) 刑法上財物ト云フハ必スシモ經濟上交換價値ヲ有スルモノニ限ラス苟モ財產權ノ目的トナリ得ヘキモノヲ汎稱スルモノトス(四三年九一一三號同年六月二〇日宣告)  
 ○(大判) 零細ナル反法行爲ハ犯人ニ危險性アリト認ムヘキ特殊ノ情況ノ下ニ決行セラレタルモノニ非サル限り共同生活上ノ觀念ニ於テ刑罰ノ制裁ヲ加フヘキ法益ノ侵害ト認メザル以上ハ犯罪ヲ構成スルコトナシ(四三年九一六二八號同年一〇月一日宣告)  
 ○(大判) 人ノ所有物ヲ竊取シタル後單ニ之ヲ處分スルカ如キハ奪取行爲ニ伴フ所有權侵害ノ行爲ニ過キサレハ竊盜罪中ニ包含セラレ別罪ヲ構成スルコトナシト雖其行爲力單純ナル贓物ノ處分即奪取行爲ニ伴フ所有權ノ侵害ニ非スシテ贓物ヲ用ヒテ更ニ他人ノ損害ニ歸スヘキコトヲ爲シ他ノ法益ヲ侵害スルトキハ其法益ヲ侵害スル點ニ於テ他ノ犯罪ヲ構成スルハ當然ノ事ニシテ贓物ヲ犯罪ノ用ニ供シタルカ爲メ犯人ニ於テ其罪責ヲ免ルルノ理



由更ニ之レアルコトナシ(四三年レ一九九八號同年一月廿  
告)

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ  
強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲  
役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人  
ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ(舊刑三七八、三七  
九)

◎(大判) 強盜罪ニ於テハ犯人ノ用ヒタル手段カ其性質上被害者  
ノ自由ヲ全然剝奪スル如キ極テ重大ナルモノタルコトヲ必要ト  
スルモ恐喝取財罪ニ在テハ其手段ハ性質上相手方ヲ畏怖セシム  
ヘキモノタルコトヲ要スルト同時ニ被害者ニ尙意思ノ自由ヲ存  
シ全然之ヲ剝奪スルニ至ラサルコトヲ必要トス(三七年一八六  
五頁)

◎(大判) 甲者カ乙者ニ對シ丙者ニ暴行ヲ加ヘテ或財物ヲ奪取ス  
ヘキコトヲ命シタル以上ハ特ニ丙者ヲ毆打スヘシトノ指揮ヲナ  
ササル乙者カ加ヘタル暴力ノ結果ニ付キ刑事上ノ責任ヲ免ルル  
コトヲ得ス(四二年レ四七三號同年五月十一日宣告)

◎(大判) 強盜ノ目的ヲ以テ人ヲ脅迫シ新ニ約束手形ヲ作成セシ  
メタルトキハ其手形ハ法律上無効ニシテ金錢的價值ヲ有セサル  
モ所有權ノ目的ト爲リ得ヘキ有價物ナルヲ以テ之ヲ作成者ノ所

第二百四十九條

暴行ヲ加ヘ、又ハ現ニ身體生命ニ危難ヲ加フルコ  
トヲ強迫シ他人ニ屬スル動産ヲ不正ニ所有スルノ意思ヲ以テ強取  
シタル者ハ強盜ノ罪トシ懲役ニ處ス

第二百五十條

左ノ場合ニハ五年以上ノ懲役ニ處ス  
減輕ス可キ情狀アルトキハ六月以上ノ禁錮ニ處ス

第一、兇器ヲ持シタル強取者又ハ其共犯者

第二、強盜又ハ竊盜ヲ繼續シテ行ハンカ爲メ二人以上同盟シ共ニ  
強盜ヲ爲シタル者

第三、公道、街衢、公園、公海、又ハ水路ニ於テ強盜ヲ爲シタル  
者

第四、強盜又ハ竊盜ヲ爲サンカ爲メ人ノ住居セル建造物(第二  
四十三條第七)内ニ忍入り又ハ暴行ヲ以テ侵入、又ハ潜伏シ、

夜間強盜ヲ爲シタル者

第二百五十三條

自己又ハ他人ニ對シ不正ニ財産上ノ利益ヲ得セシ  
ムル爲メ暴行強迫ヲ以テ人ヲシテ或ル事ヲ爲サシメ、若クハ爲サ  
サラシメ、又ハ之ヲ肯セシメタル者ハ強利ノ罪トシ一月以上ノ  
禁錮ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

持内ヨリ強取シタル所爲ハ強盜罪ヲ構成ス(四二年レ二〇八二  
號四二年二月二十日宣告)

◎(大判) 刑法二三六條二項ニ規定スル暴行又ハ脅迫ノ手段ニ因  
ル不法利得ノ罪ハ暴行又ハ脅迫ノ手段ヲ用キテ不法ニ財産上無  
形ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル外形の事實ノ發  
生スルコト換言スレハ叙上ノ手段ヲ以テ不法ニ財産上無形ノ利  
益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシムル爲メ他人ニ財産上ノ處分  
(作爲又ハ不作爲ヲ含ム)ヲ強制スルコトヲ要シ債務者カ債務  
ノ履行ヲ免ルル目的ヲ以テ單ニ債權者ヲ殺害スル行爲ノ如キハ  
同條項ノ強盜罪ヲ以テ論スルコトヲ得ス(四三年レ八五〇號同  
年六月一七日宣告)

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタ  
ル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ  
逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅  
迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス(舊刑三八二)

◎(大判) 刑法二三八條ハ竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又逮捕ヲ  
免レ若ハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲナシタルトキハ強盜  
ヲ以テ論ストアリテ右法文ノ趣旨ハ竊盜犯者カ財物ヲ得テ其取  
還ヲ拒ク爲暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキ又竊盜犯者カ逮捕ヲ免  
レ若ハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ何レモ  
強盜ヲ以テ論スト云フニ在ルコトハ該法條ノ文理解釋上疑ナク

第二百五十二條

竊盜其現行ノ際發覺シタルニ因リ贓物ノ取還ヲ防  
グ爲メ他人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ現ニ身體生命ニ對スル危難ヲ加フヘ  
キコトヲ以テ之ヲ脅迫シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス



レサル所ナルカ故ニ從テ竊盜犯者ニシテ尙モ逮捕ヲ免カレ若ハ  
跡ヲ湮滅スル目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル事實アルニ  
於テハ縱シ財物ヲ得ストスルモ本條ニ所謂強盜ヲ以テ論スヘキ  
モノトス(四三年七月一日宣言)

◎(大判) 按フルニ刑法第二百三十八條ノ規定ハ竊盜犯人ニシテ  
財物ノ取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴  
行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ其暴行脅迫ハ財物盜取ノ方法ニハ  
アラサルモ其方法ニ之ヲ用キタル場合ニ準シ強盜トシテ之ヲ處  
分ストノ趣旨ニシテ竊盜犯人カ財物ヲ得タルト否トニ拘ハラズ  
常ニ財物ヲ得タル強盜ト同一ノ刑ニ處ストノ趣旨ニハアラス故  
ニ其財物ヲ得タル場合ハ強盜ノ既遂ヲ以テ論シ其之ヲ得サル場  
合ハ強盜ノ未遂ヲ以テ論スルハ固ヨリ當然ノコトニシテ財物ヲ  
得サルニ拘ハラズ強盜ノ既遂トシテ之ヲ論スヘキモノニ非ス  
(四二年一月一六三號同年一月一日宣言)

◎(大判) 刑法二三八條ハ竊盜方同條所定ノ行爲ヲ爲シタルトキ  
ハ強盜トシテ其罪ヲ論スヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ單純ナル  
竊盜ノ加重情狀ニ關スル規定ニ非ス(四三年一月一八二號同年  
一月二十四日宣言)

**第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シ  
タル者ハ強盜ヲ以テ論ス(舊刑三八三)**

**第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七  
年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ**

**第二百五十一條 強盜人ヲ拷責シ、又ハ之ヲ重キ身體傷害若クハ死  
ニ致シタルトキハ十年以上ノ懲役ニ處ス**

**無期懲役ニ處ス(舊刑三八〇)**

◎(大判) 強盜殺人罪ハ財物ヲ強取スル爲人ヲ殺害スルニ依リテ  
成立ス而シテ其財物ヲ得ルト否トハ犯罪ノ構成ニ何等ノ影響ナ  
シ(三九年四月二頁)

◎(大判) 人ノ所有物ヲ竊取スルニ當リ其取還ヲ拒ク爲臨時暴行  
ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス可キモノトス從テ其暴行ノ結果  
人ヲ傷シタルトキハ強盜殺人罪ヲ構成ス(三四年五月三五頁)

◎(大判) 苟モ強盜ニシテ人ヲ死ニ致シタル以上ハ其殺害行爲ノ  
際打致死タルト謀殺殺タルナ間ハ又財ヲ得タルヤ否ヤヲ論セ  
ス強盜殺人罪ノ既遂トシテ處斷ス可キモノトス(三七年一月四一  
〇頁、三八年三七四頁)

◎(大判) 二人以上共謀シテ強盜ヲ行ヒ其強奪ノ際傷人ノ行爲ヲ  
リタルトキハ縱令其傷人ハ他ノ一人ノ行爲ナリトスルモ共犯者  
ハ共ニ強盜傷人罪ヲ以テ處斷ス可キモノトス(三五年六月一八  
八頁)

◎(大判) 強盜ノ教唆ヲ爲シタル者ハ其實行方法ニ關シテ何等ノ  
制限ヲ付セザリシ場合ト雖強盜殺人教唆ノ責任ヲ負フコトナシ  
從テ強盜教唆者ニシテ強盜殺人教唆ノ責任ヲ負ハシムルニハ教  
唆者ニ於テ被教唆者カ財物強取ニ關シ被害者ヲ殺害スルコトヲ  
豫見シタリトノ事實ヲ說示セサル可ラス(三七年八月一頁)

◎(大判) 刑法三八〇條(舊)ハ強盜ヲ犯スニ當リ人ヲ傷シタル所  
爲ヲ以テ特別ノ一罪ト定メタルモノトス故ニ犯人カ財物強取ノ



目的ヲ達シタルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ(三七年一頁)

◎(大判) 原判決ノ趣旨ハ被告等三名共謀ノ上前村役場ニ於テ強盜ヲ爲サンコトヲ企テ被告庄五郎ハ戶外ニ在リテ見張ヲ爲シ之ヲ警戒ノ任ニ當リ被告忠次石蔵ハ各兇器ヲ携ヘ役場内ニ押入リ強盜殺人ノ行爲ニ及ヒタリト云フニ在レハ被告庄五郎亦強盜殺人犯ノ實行ニ加功シタルコトヲ認メタルコト勿論ナルヲ以テ原審カ被告庄五郎ニ對シ所掲ノ罰條ヲ適用シ他兩名ノ被告ト同一ノ刑ニ處シタルハ相當ナリ(四二年九六一九號同年六月八日宣告)

◎(大判) 金圓ヲ強取スル爲メ同時ニ同所ニ於テ二人ヲ死ニ致シタル所爲ハ二個ノ強盜殺人罪ヲ構成ス舊刑法ノ下ニアリテハ所掲被告等ノ行爲カ二個ノ強盜殺人罪ヲ構成スヘキコトハ當院ノ判例トシテ夙ニ認ムル法理ナルノミナラス刑法ノ下ニ在リテ亦二個ノ強盜殺人罪ヲ組成スヘキコトハ是亦疑ヲ存スルノ餘地アルコトナシ何トナレハ所掲總則第五十四條ノ規定ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ各獨立シタル二個ノ所爲カ犯罪ノ手段若クハ結果タル場合ニ於テ之ヲ結合シ一ノ重キニ從ヒ處分スヘシト云フニ在レハ該條ハ本案ノ如ク一個ノ所爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レタルニ非ス又強盜行爲ニ殺人行爲ト各獨立シテ互ニ手段タリ若クハ結果タル可キモノニモ非サル場合ニ適用スヘキモノニ非サレハナリ(四二年九六一九號同年六月八日宣告)

◎(大判) 殺人罪ハ單一ノ決意ヲ以テ之ヲ行フモ被害者毎ニ二罪ヲ構成スルモノトス從テ強盜ヲナスニ當リ二人以上ノ者ヲ死ニ致シタルトキハ縱令強盜ノ行爲ハ一個ナルモ其死ニ至リタル被害者毎ニ各別ノ強盜致死罪ヲ構成ス(四二年九六一八號同年六月一七日宣告)

◎(大判) 刑法二四〇條ハ強盜カ財物ヲ強取スル爲メ暴行脅迫ヲ行フニ因リテ人ヲ殺傷シタル所爲ヲ處罰スル規定ニシテ其殺意ニ出テタルト否トナ間フコトナシ次ニ同様ノ罪ハ同一九九條ニ規定スル殺人罪ノ特別ナル場合ニ屬セス全然別種ノ犯罪ヲ成スモノナルヲ以テ殺意ヲ以テ人ヲ殺傷シテ強盜行爲ヲ行ヒタルトキハ一面ニ於テ強盜致死又ハ強盜傷人ノ犯罪成立スルト同時ニ他ノ一面ニ於テ殺人未遂ノ犯罪ヲ構成スルモノトス(四三年九一八五九號同年一〇月二七日宣告)

◎(大判) 一個ノ強盜罪ヲ犯ス爲メ數人ヲ殺害シタルトキハ縱令其殺人行爲ハ同一ノ目的ヲ遂行スルノ手段トシテ行ヒタル場合ト雖之ヲ數個ノ強盜致死罪ニ間擬スルヲ當然トス(四三年九一六七號同年一月二四日宣告)

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(舊刑三八一)

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百五十一條 強盜人ヲ拷問シ、又ハ之ヲ重キ身體傷害若クハ死ニ致シタルトキハ十年以上ノ懲役ニ處ス

第二百八十九條 自己又ハ他人ノ利益ノ爲メ其所有スル動産ヲ利益者、質權者、又ハ其物件ニ付キ使用權若クハ留置權ヲ有スル者ヨリ權利ヲ害スル意思ヲ以テ奪取シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ九



百「マーク」以下ノ罰金ニ處ス  
禁錮ニ處スルトキハ公權ヲ剝奪スルコトヲ得  
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
第二百四十七條第二項第三項ノ規定ハ本條ニ之ヲ適用ス

(舊刑三七二)  
◎(大判) 刑法三七一條(舊)ニ所謂他人ノ看守シタルトキハ獨差  
抑其他ノ權力行爲ニ依リテ所有者ノ物件ヲ取リ上ケタル官吏カ  
第三者ヲシテ之ヲ保管セシムル場合ニ限ラズ其官吏自ラ保管ス  
ル場合モ亦之ヲ包含スルモノトス(三七年一七八一頁)  
第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、  
第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之  
ヲ罰ス(舊刑三七五)

◎(大判) 竊盜ノ未遂タルニハ犯人カ他人ノ所有物ヲ致テ自己ノ  
事實上ノ支配内ニ移スノ行爲ニ著手シタルヲ要セス自己ノ事實  
上ノ支配内ニ移サンカ爲他人ノ其物ニ對スル事實上ノ支配ヲ侵  
サントスルノ行爲ニ著手スルニ依リ成立スルモノトス(三四年  
六卷六九頁)

◎(大判) 同趣旨(三五年八卷一七頁)

第二百四十七條第二項 竊屬親其專屬親ニ對シ、又ハ配偶者ノ一方  
カ他方ニ對シ犯シタル竊盜若クハ横領ノ罪ハ之ヲ罰セス  
本條ニ揭ケタル關係ヲ有セサル共犯者又ハ犯罪庇護者ニハ本條ノ  
規定ヲ適セス

第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族  
又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未  
遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ  
家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用  
ヒス(舊刑三七七)  
◎(大判) 夫カ他人ヨリ融通使用ヲ許サレサル金圓ヲ預リタル場

合ニ妻カ其情ヲ知り之ヲ竊取シタルトキハ夫ノ金圓ヲ竊取シタ  
ルモノニ非スシテ他人ノ金圓ヲ竊取シタルモノトス(三四年四  
卷九七頁)

◎(大判) 執達吏ノ命令ニ依リ甲ノ長男カ甲ノ所有物ヲ看守シタ  
ル場合ニ之ヲ竊取シタル甲ノ所爲ハ長男ノ監督權ヲ侵害シタル  
ニ止マラスシテ直接ニ執達吏ノ官權ヲ侵害シタルモノトス從テ  
親族互ニ其財物ヲ竊取シタルモノト謂フヲ得ス(三六年一四六  
七頁)

◎(大判) 刑法二四四條一項ニ揭ケタル刑ノ免除其他ノ特典ハ單  
ニ同條所定ノ親族相互ノ間ニ行ハレタル竊盜ノ罪ニ付テナラテ  
ハ適用セラルヘキモノニ非サレハ從テ犯人ノ竊取セシ物カ繼シ  
其他親族ノ所有ニ屬ストスルモ竊取ノ行爲カ既ニ親族以外ノ者  
ニ於テ其利益ノ爲ニ之ヲ占有シ居ル場合ニ行ハレタルモノナル  
ニ於テハ之ニ對シ最早ヤ該條項ヲ適用スヘキモノニ非スシテ普  
通竊盜ニ對スル罰則タル同法二三五條ヲ適用スヘキモノトス  
(四三年九八九〇號同年六月七日宣言)

第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物  
ト看做ス

◎(大判) 電氣ハ有體物ニ非サルモ五官ノ作用ニ依リ其存在ヲ認  
識スルコトヲ得可キモノニシテ之ヲ容器ニ收容シテ獨立ノ存在  
ヲ有セシムルコトヲ得從テ他人ノ所持スル電氣ヲ不法ニ奪取シ  
テ之ヲ自己ノ所持内ニ置キタル者ハ刑法三六六條(舊)ニ所謂他



人ノ所有物ヲ竊取シタルモノナリ(三六年八七四頁)

◎(獨逸帝國裁判所判決) 電流ノ竊取ハ犯罪ヲ成立セシムルコトナシ

編者曰獨逸ニ於テハ以上ノ判決アリタル後電力ヲ經濟的方面ヨリ觀察シ價值ヲ生スヘキ電氣作用ヲ以テ盜罪及毀壞罪ノ目的タルモノト爲シ一九〇〇年四月九日之帝國法律トシテ發布セリ

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシタル者亦同シ(舊刑三九〇)

◎(大判) 詐欺取財罪ハ人ヲ詐欺シ之ヲ錯誤ニ陷キ不正ニ財産ヲ取得スルニ依リテ成立ス故ニ縱令手段ハ欺罔ニ出ツルモ其取得シタル財産上ニ正當ナル權利ヲ有スルトキハ犯罪ヲ構成セス(四一年七六九頁)

◎(獨逸帝國裁判所判決) 詐欺取財罪ニ於テ自己又ハ第三者ノ爲ニ圖リタル利益ハ不法(行爲者カ法律上要求スル權利ナキトキ)ニシテ且行爲者ニ於テ不法ナル事實ヲ認識スルコトヲ要ス

◎(大判) 未來ニ屬スル事項ト雖虛構ニ係リ人ヲ欺クニ足ルモノハ即チ詐欺取財ノ要素タル欺罔ナリ(二九年六卷八七頁)

◎(大判) 詐欺取財罪ヲ構成スルニハ被害者カ加害者ノ欺罔手段ニ因リテ事實ノ眞想ヲ誤認シ又ハ其誤認ニ陥ラントシタルコト

下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得  
減輕ス可キ情狀アルトキハ私證書偽造ノ罪ニアリテハ一週以上、公證書偽造ノ罪ニアリテハ三月以上ノ禁錮ニ處ス。禁錮ニ處スルトキハ三千「マーク」以下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得

第二百六十三條 自己又ハ第三者ニ對シ不正ニ財産上ノ利益ヲ得セシムル爲メ他人ヲ欺罔、又ハ事實ヲ變更隱蔽シテ錯誤ヲ誘起又ハ増進セシメ、因テ他人ノ財産ニ對シ損害ヲ加ヘタル者ハ詐欺ノ罪トシ禁錮ニ處ス、尙三千「マーク」以上ノ罰金ヲ附加シ、及公權ヲ剝奪スルコトヲ得  
減輕ス可キ情狀アルトキハ罰金ニ處ス  
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
親族、後見人、教育者ニ對シ詐欺ノ罪ヲ犯シタル者ハ告訴ヲ待テ其罰ヲ論ス、但告訴ハ之ヲ取下クルコトヲ得  
第二百六十八條 自己又ハ他人ニ對シ財産上ノ利益ヲ得セシメ又ハ他人ニ損害ヲ加ヘンカ爲メ文書偽造ノ罪ヲ犯シタルトキハ左ノ例ニヨリ處斷ス  
第一、私證書ナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス尙三千「マーク」以下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得  
第二、公證書ナルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス尙六千「マーク」以

下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得  
減輕ス可キ情狀アルトキハ私證書偽造ノ罪ニアリテハ一週以上、公證書偽造ノ罪ニアリテハ三月以上ノ禁錮ニ處ス。禁錮ニ處スルトキハ三千「マーク」以下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得



訴訟ノ提起ハ詐欺取財ノ實行ニ着手シタルモノナルモ之ヲ遂ケ  
サリシハ被告ノ意外ノ障礙若ハ外錯ニ因ルニ非ザルヲ以テ其未  
遂罪ヲモ構成スルコトナシ(三五年九卷六八頁)

◎(獨逸帝國裁判所判決) 詐欺取財罪ニ於テ被欺者ト被害者ト  
異ナルトキト雖被欺者ハ被害者ノ財産ニ付キ事實上之ヲ處分  
シ得ヘキ地位ニ在ルトキハ本罪ノ構成ヲ妨クルコトナシ

◎(大判) 訴訟上事實ヲ構造シテ裁判官ヲ錯誤ニ陥ラシメ自己ノ  
所有ニ屬セサル物件ヲ騙取セントシタル所爲ハ詐欺取財罪ナリ  
トス(二八年五卷四三頁)

◎(大判) 騙取ノ目的ヲ達スル爲訴訟ヲ裁判所ニ提起シタル所爲  
ハ詐欺取財ノ實行ニ着手シタルモノトス(二九年一〇卷四頁)

◎(大判) 無効ニ屬シタル證書ヲ利用シ以テ債權ヲ假庇シ裁判所  
ニ出訴シタル所爲ハ欺罔ノ手段ナリ而シテ之ニ因リテ金圓騙取  
ノ目的ヲ達シタル所爲ハ詐欺取財罪ナリトス(二九年一〇卷八  
四頁)

◎(大判) 裁判所カ形式上適法ナル支拂命令ノ申請ヲ受クルトキ  
ハ法律ノ規定ニ依リ其中請ノ原因タル債權ハ現ニ存在スルモノ  
ナリトノ推定ヲ爲シ支拂命令ヲ發スヘキモノトス從テ適式ナル  
支拂命令ノ申請ヲ爲スノ事實ハ裁判所ニ對スル欺罔手段トナル  
コトヲ妨ケス(三七年一二四三頁)

◎(大判) 抵當權者カ抵當地所ノ買受人ヨリ買代金ヲ受領シ抵  
當權ヲ拋棄スヘキコトヲ承諾シタルニ拘ラス抵當登記ノ形式上  
未ダ抹消セラレサルヲ奇貨トシ眞正ノ抵當權者ノ如ク裝ヒ裁判

所ニ申請シテ該地所ヲ競賣セシメ其競落代金ヲ受領シタル所爲  
ハ詐欺取財罪ヲ完成ス而シテ此場合ニ競落人ハ競賣法上當然所  
有權ヲ取得スルモ前買受人カ損害ヲ被ムルカ故ニ競落人ニ損害  
ヲキテ理由トシテ犯罪ヲ構成セスト云フヲ行ス(三七年一〇八  
七頁)

◎(大判) 債務ノ辨濟ニ因リ既ニ消滅シタル抵當權ヲ依然存在ス  
ルモノノ如ク裝ヒ競賣ノ申立ヲ爲スニ於テハ裁判所カ決定ヲ爲  
スト否トニ拘ラス詐欺取財未遂犯ヲ構成スルモノトス(四〇年  
二二四頁)

◎(大判) 人カ欺罔シテ財産上不正ノ利益ヲ得タル所爲ハ舊法ニ  
在テハ罪トナラサルモノトス(四二年九四九二號同年五月一三  
日宣告)

◎(大判) 一、小切手ハ刑法二四六條一項ニ所謂財物ノ一種ナリ  
トス二、苟モ人カ欺罔シテ小切手ヲ騙取シタル以上ハ其當時尙  
振出日附以前ニ屬シ未タ小切手タルノ效力ヲ生セサル場合ト雖  
詐欺取財罪ノ成立ヲ妨ケス(四二年九五〇三號同年五月二四日  
宣告)

◎(大判) 苟モ詐欺ノ手段ヲ以テ不動産所有權ノ移轉ヲ承諾セシ  
ムルニ於テハ之ト同時ニ詐欺取財ノ罪ヲ完成スルモノトス(四  
二年九五〇三號同年五月一四日宣告)

◎(大判) 原判決ニ認示スル所ニ依レハ被告ハ上野富太郎ニ對ス  
ル五圓五十錢ノ債務ヲ不正ニ免レ且ツ同人ヨリ金錢ヲ騙取セシ  
コトヲ企テ豫テ債務譲渡ノ手續ニ依リ受領シ置キタル西海萬吉



外二名ヨリ今田半太宛金五十三圓、貸借公正證書原本ノ一部偽造ニ係リ無効ノモノナルコトヲ知リナカラ富太郎ニ對シテ之ヲ有スルモノト詐リ同人ヲ錯誤ニ陥レ右五圓五十錢ノ債務ノ辨濟ニ引當テシメ以テ不法ニ債務ヲ免レタルノミナラス同時ニ其對價ノ内金トシテ金五十錢ヲ騙取シタルモノナルカ故ニ被告カ欺罔手段ニ依リ金錢ヲ騙取シタルハ刑法第二百四十六條第一項ニ該リ其不法ニ債務ヲ免レタルハ同條第二項ニ該リ即チ一個ノ行為ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ同第五十四條第一項ニ依リ處斷スヘキモノナリ(四二年九五八四號同年五月三一日宣告)

◎(大判) 一人ヲ欺罔シテ其不動産ヲ犯人ノ自由ニ處分シ得ヘキ状態ニ置カシメタル所爲ハ不動産騙取罪ヲ構成ス而シテ被害者カ眞ニ其所有權ヲ犯人ニ移付スルノ意思ヲ表示シタルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ關係ナシニ、登記官更方登記ヲ終ヘタル後其登記簿ヲ自己ノ所屬登記所ニ備付クヘキコトハ登記官吏ノ職務上當然爲スヘキ事項ニ屬ス故ニ虛偽ノ登記申請ヲ爲シ登記官吏カシテ登記簿ニ不實ノ登記ヲ爲シメタル者ニ於テ其登記簿ハ當然登記官吏ニ依テ其所屬登記所ニ備付ケラルルモノナルコトヲ豫見シナカラ虚偽ノ登記申請ヲ爲シタル以上ハ此必要ノ結果タル不實ノ記載アル登記簿行使ノ所爲ハ虚偽ノ登記申請者ニ於テ登記官吏ノ職務上當然爲スヘキ行為ヲ利用シテ間接ニ之ヲ實行シタルモノト云フヘク自己カ直接ニ其所爲ニ干與セザリシノ故ヲ以テ右所爲ニ對スル刑法上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得サル

ナリ(四二年九五六號同年六月一七日宣告)

◎(大判) 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル以上ハ縱令其給付カ不法ノ原因ニ出テタル爲メ被害者ニ於テ民法上救濟ヲ求ムルコト能ハサル場合ト雖モ詐欺取財罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス(四二年九五六號同年六月二一日宣告)

◎(大判) 偽造シタル公正證書ノ原本ハ無價値ノモノナルノミナラス所有權ノ目的物トナラサルヲ以テ之レヲ騙取スルモ詐欺取財罪ヲ構成セザルコトハ本院判例ノ示ス所ナルモ當該吏員カ正當ノ手續ヲ履行シ第三者ニ交付シタル右公正證書ノ正本ハ其原本トハ之カ成立ノ點ニ於テ異ナル所アレハ原判決ニ認定セル事實ノ如ク被告等カ他人ノ手ニ存スル公正證書ノ正本ヲ騙取シタル以上ハ詐欺取財罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ(四二年九三五號同年一月九日宣告)

◎(大判) 公正證書ヲ作成スヘキ條件ヲ以テ金圓ヲ騙取シタル場合ト雖モ其作成ニシテ金圓騙取ノ後之カ發覺ヲ豫防スル爲メニ行ハレタルトキハ之ヲ以テ騙取罪ノ手段又ハ結果ナリト云フヲ得ス(四二年九一三七〇號同年一月二一日宣告)

◎(大判) 刑法第二百四十六條第二項ニ所謂不法ノ利益ヲ得又他人ヲシテ之ヲ得セシムルトハ適法ノ理由ナクシテ他人ヨリ財産上ノ利益ヲ自己ニ取得スルカ又ハ第三者タル他人ヲシテ之ヲ取得セシムルノ謂ニシテ其財産上ノ利益ハ法律上有效ニ之ヲ取得又ハ取得セシムルコトヲ必要トセス假令其利益ノ取得ハ法律上無効ナリトスルモ苟クモ外形ニ於テ(形式的)之ヲ取得スルヲ以



テ足レトス(四二年九一四八四號同年一月一五日宣告)

◎(大判) 詐欺取財罪ハ人ヲ欺罔シ不法ニ財物ヲ交付セシムルニ因リテ成立ス而シテ其欺罔ノ手段ヲ法律上有效ナル形式ニ依リタルト否トハ犯罪ノ構成ニ影響ヲ及ホスコトナシ(四二年九一三〇八號同年二月九日宣告)

◎(大判) 法律ハ詐欺ノ手段ニ因リテ積極的ニ財物ノ給付ヲ得タル行爲ノミナラス消極的ニ財産上ノ利益ヲ得タル行爲即チ債務ノ免脱ヲ得タル行爲ノ如キモ亦刑法第二百四十六條第二項ニ依リテ處罰スルノ精神ナリト解スルチ相當トス何トナレハ害悪ノ觀念ニ於テ右前段ノ行爲ト後段ノ行爲トヲ區別シ前者ヲ罰シテ後者ヲ不問ニ付スヘキ法律上ノ理由アルテ見サレハナリ(四二年九一七二四號同年一月一三日宣告)

◎(大判) 二人ニ對シテ唯一ノ詐術ヲ施シ同時ニ其術中ニ陷レ金圓ヲ騙取シタル以上ハ縱令騙取ノ日時又ハ場所ニ異同アルモ單純ナル一罪ト認ムヘキモノニシテ連續犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス(四二年九一八三六號同年二月二三日宣告)

◎(大判) 連續犯タル詐欺取財ノ成立ニハ其連續シタル數個ノ行爲ヲ各個ニ分離シテ之ヲ觀察スルモ其各行爲ヲ獨立シテ執レモ一個ノ詐欺取財ヲ構成スルニ足ルヘキ要件ヲ具備セサル可カラズ(四二年九一九四〇號四〇號四三年一月二八日宣告)

◎(大判) 判決確定後又ハ支拂命令ニ對スル執行命令確定シタル後該判決又ハ命令ヲ偽造證書ノ行使ニ基因シタルコトノ情ヲ知ラザラ強制執行ヲ爲スモ其行爲ハ詐欺取財罪ヲ構成セス(四二

年九一七三九號、四三年二月三日宣告)

◎(大判) 他人ヲ詐欺取財ヲ爲サントテ企テ偽造證書ヲ行使シテ確定判決若ハ支拂命令ニ對スル確定ノ執行命令ヲ得タル上進テ強制執行ヲ爲サントスルニ當リ其情ヲ知リ乍ラ之ニ加擔シ執行上財物ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得ス(同上)

◎(大判) 裁判所カ形式上適法ナル支拂命令又ハ裁賢等ノ申請ヲ受クルトキハ法律ノ規定ニ依リ其基本タル債權存在スルモノト推定シ該命令又ハ決定等ヲ爲スヘキモノトス故ニ如上ノ申請ヲ爲ス事實ハ裁判所ニ對スル欺罔手段ト爲ルコトヲ妨ケス(同上)

◎(大判) 苟モ欺罔ノ手段ニ依リ金圓ヲ騙取シタル以上ハ縱令該金額中被告ニ於テ正當ニ受領スヘキモノアルモ其全部ニ付詐欺取財ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス(四二年九二二四三號、四三年二月一七日宣告)

◎(大判) 詐欺取財ノ目的ヲ以テ偽造證書ニ基キ既訟上ノ救助ヲ申請スルハ詐欺罪ノ豫備行爲ニ過キス而シテ犯人カ次イテ既證ヲ提起シタルトキハ即其實行行爲ニ著手シタルモノトス(四三年九一八一二號、同年五月二七日宣告)

◎(大判) 刑法二四六條二項ハ人ヲ欺罔シテ有體ノ財物ニ非サル財産上ノ利益ヲ自ラ取得シ又ハ他人ヲシテ之ヲ取得セシメタル者ニ適用スヘキ規定ニシテ本件被告ノ如ク人ヲ欺罔シテ金錢即有體ノ財物ヲ取得シタル者ニ適用スヘキ規定ニ非ス(四三年九



五〇六號同年五月三十一日宣言

◎(大判) 荷主人ヲ欺罔シタル結果トシテ財物ノ所持ヲ所得シ又ハ不法ノ利益ヲ得タル所爲アルニ於テハ其取得若ハ利益力永久ニ保持シ得ラルル場合ナルト否トニ拘ラス詐欺罪ヲ構成スルモノトス故ニ原判決ニ認メタルカ如ク債權者ノ支拂請求ヲ受ケルニ當リ詐欺ノ手段ヲ用キテ外形上債務ノ免脱ヲ受ケタル以上ハ其債務免脱ノ原因トナリタル契約方法上無効タルノ故ヲ以テ其免脱ノ利益力將來ニ保持シ得ラレザル場合ト雖欺罔ノ結果不法ノ利益ヲ得タルモノタルヲ免サレハ詐欺罪ヲ構成スルコト論テ俟タス(四三年九三三號同年六月二日宣言)

◎(大判) 公有水面埋立ノ免許ヲ受ケタル者カ行政廳ノ許可命令ヲ條件トシテ埋立地所ニ對スル持分ノ讓渡契約ヲ締結シナカラ其持分ニ屬スル地所ノ價格昂騰シタル爲該契約ヲ無効ナラシメ不法ニ自ラ利スル所アラント欲シ詐欺ノ手段ヲ用ヒテ故意ニ其條件ノ成就ヲ妨ケタル所爲ハ刑法二四六條二項ノ犯罪ヲ構成ス(四三年九八六二號同年六月一七日宣言)

◎(大判) 公有水面埋立工事ニ關スル持分ノ免許權ハ之ヲ移轉スルニ付當該行政廳ノ許可ヲ要スルノ外民法上ノ諸權利等シテ實質讓渡交換等處分權ノ目的ト爲リ得ルノミナラス一旦工事完成スルニ於テハ其持分ニ相當スル地所ノ上ニ完全所有權ヲ獲得シ得ヘキ性質ヲ有スル一種ノ權利ナルヲ以テ刑法二四六條二項ニ所謂財産上ノ利益ト云フニ何等妨ナシ(同上)

◎(大判) 荷主財物騙取ノ手段トシテ欺罔手段ヲ用キタル以上ノ

之ト共ニ眞實ナル手段ヲ併用シタルト時タ財物ノ騙取ニ際シ犯人ヨリ被害者ニ與ヘタル財産上ノ利益カ被害者ノ被リタル損失ヲ償ヒ得ルト否トハ詐欺取財罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス(四三年九七〇四號五月一七日宣言)

◎(大判) 一個ノ欺罔手段ヲ施シ數回ニ財物ヲ騙取スルハ數個ノ連續セル行爲ニ非スシテ單一ノ行爲ナリトス(四三年九一九四七號同年一月七日宣言)

◎(大判) 詐欺ノ手段ニ依リ提供スヘキ證據金ヲ提供セスシテ賣買取引ヲ爲スハ刑法二四六條二項ノ所謂財産上不法ノ利益ヲ得タルモノニ外ナラス(四三年九二〇二五號同年一月一七日宣言)

◎(大判) 會社ノ取締役カ偽造ノ小切手ヲ行使シ第三者ヲシテ正當ノ權限ニ基キ引出スモノノ如ク信セシメ金員ヲ交付セシムルニ於テハ總令第三者ノ方面ニ何等ノ損害ヲ生スルコトナク其損害ハ却テ會社ノ負擔ニ歸スヘキ場合ト雖詐欺取財罪ノ成立ヲ妨ケス(四三年九二〇一四號同年一月二八日宣言)

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十六條

左ニ記載シタル場合ニハ背信ノ罪トシ禁錮ニ處ス尙公權ヲ剝奪スルコトヲ得

第一、後見人、財産管理人、財産監督人、供託物保管人、破産管財人、遺言執行者又ハ寄附財産取扱人、故意ニ其委託ヲ受ケタル物件ニ對シ損害ヲ與フ可キ行爲ヲ爲シタルトキ

第二、代理人故意ニ委任者ノ債權其他ノ財産ニ損害ヲ與フ可キ行爲ヲ爲シタルトキ



第三、土地測量人、競賣人、仲立人、貨物鑑定人、運送人、秤量人、撰査人、監査人、荷積人、其他官廳ニ對シ一定ノ業ヲ爲ス可キ職務アル者、其委託セラレタル行爲ヲ爲スニ方リ故意ニ委託者ニ損害ヲ加ヘタルトキ  
 自己又ハ他人ニ對シ財産上ノ利益ヲ得セシムル爲背信ノ罪ヲ犯シタル者ハ禁錮ニ處スルノ外尙三千「マ」以下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得

第三百一條 利益ヲ得シカ爲メ幼者ノ知慮淺薄又ハ無經驗ニ乘シ借用證書、手形、受領證、保證書、其他義務ニ關スル證書ヲ交付セシメ、又ハ口頭ヲ以テ支拂ヲ約諾セシメタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ千五百「マ」以下ノ罰金ニ處ス  
 本條ノ罪ハ先諾ヲ待テ之ヲ論ス

第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三九二)

- ◎(大判) 刑法三九一條(舊)ノ犯罪ヲ構成スルニハ犯人カ幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ナルニ乘シテ財物若クハ證書類ヲ授與セラレタル所爲アルヲ以テ足り別ニ被害者ニ對シ欺罔ノ手段ヲ施シタル事實アルコトヲ要セス(四一年五九八頁)
- ◎(大判) 幼者ノ知慮淺薄ナルニ乘シ欺罔ノ手段ヲ以テ財物ヲ授與セシメタル所爲ハ純然タル詐欺取財罪ニシテ刑法三九〇條(舊法)現行刑法二四六條ニ該ル)ニ依リ制裁スヘク同法三九一條(舊法)現行刑法二四八條ニ該ル)ヲ以テ處斷スヘキモノニ非ス(二八年三卷一一頁)
- ◎(大判) 愚昧ノ者ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シタル場合ト雖其被害者ニシテ幼年者若ハ精神錯亂者ニ非サルトキハ刑法三九一條(舊)

ハ之ヲ適用スル限ニ非ス(三六年九五六頁)  
 ◎(大判) 人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ財物若ハ證書類ヲ授與セシメタルトキハ之カ代價ヲ支拂ヒタルト否トニ拘ラス刑法三九一條(舊)ノ犯罪ヲ構成ス(三七年一一四一頁)

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス  
 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ(舊刑三九〇)

- ◎(大判) 官吏カ其職務ノ執行ニ關スル事項ヲ以テ人ヲ恐喝シ被害者ハ其職務ノ執行ヲ中止セシムル爲金品ヲ給與シタル場合ト雖犯人ノ所爲ハ恐喝取財罪ニシテ收賄罪ニ非ス(四二年五六頁)
- ◎(大判) 同趣旨(三九年九九頁)
- ◎(大判) 自己ノ取得シタル權利ヲ回復スル爲人ヲ恐喝シタル所爲ハ恐喝取財ノ罪ヲ構成セス(三九年四三六頁)
- ◎(大判) 犯人カ被害者方ニ大勢ニテ乘込ミ喰倒サント威嚇シテ手段トシテ財物ヲ騙取シタル所爲ハ其害惡ノ直接現實ナルト將々單ニ將來ノ事ニ關スルトヲ論セス恐喝取財罪ヲ構成スルニ止マリ如何ナル場合ニ於テモ強盜罪ヲ構成スルコトナシ(三七年一八六五頁)
- ◎(大判) 強盜罪ニ於テハ犯人ノ用ヒタル手段カ其性質上被害者ノ自由ヲ全然剝奪スルカ如キ極テ重大ナルモノナルヲ要ス(三七年一八六五頁)



モ恐喝取財ニ在リテハ手段ハ性質上相手方ヲ畏怖セシムヘキモノタルヲ要スルト同時ニ被害者ニ尙自由ヲ存シ全然之ヲ剝奪スルニ至ラサルコトヲ必要トス(三七年一八六五頁)

◎(大判) 恐喝取財罪ハ被害者ナシテ畏怖心ヲ生セシムルヲ以テ成立ス而シテ其恐喝ノ事實ハ必スシモ直接ナルコトヲ要セス(二八年四卷五五頁)

◎(大判) 被恐喝者ノ所爲不正ニ基ク場合ト雖惡意ヲ以テ之ヲ恐喝シ財物ヲ騙取シタルトキハ恐喝取財罪ヲ構成ス(三一年九卷四三頁)

◎(大判) 恐喝取財未遂ノ場合ニ於テハ犯人ノ用ヒタル恐喝手段カ人ナシテ恐怖ノ念ヲ生セシムヘキ性質ノモノタルヲ以テ足ル而シテ被害者カ豫期ノ如ク恐怖ノ念ヲ生シタルヤ否ヤハ未遂罪ノ成立ニ影響ヲ及ボサス(三五年八卷五五頁)

◎(大判) 恐喝取財ニ因ル損害ハ被害者カ騙取セラレタル物ニ付キ之ヲ判定スヘク其物ト犯人カ犯罪ノ手段トシテ提供シタル物トノ價格ヲ比較シテ判定スヘキモノニ非ス(四二年第七四三號同年六月二日宣告)

◎(大判) 恐喝ハ恐喝者ニ於テ直接ニ危險ヲ加フヘキコトヲ以テ手段トスル場合ニ限ラス間接ニ第三者ノ行爲又ハ天災等ニ依リ危害ヲ加フヘキコトヲ以テ手段トスル場合ヲモ包含ス而テ此等ノ手段ヲ用ヒ被恐喝者ナシテ畏怖ノ念ヲ起シ財物ヲ交付スルニ至ラシメタルトキハ茲ニ恐喝罪ハ完全ニ成立スルモノトス(四二年一四八二號同年一月一日宣告)

◎(大判) 他人ニ對シテ害惡ノ來ル可キコトヲ通告シ之ニ畏怖ノ念ヲ生セシメ因テ以テ財物ヲ交付セシメタル所爲ハ恐喝取財罪ヲ構成シ其害惡ハ犯人自ラ之ヲ加フルコトヲ要セス(四三年九七九六號同年五月二七日宣告)

◎(大判) 他人ニ對シテ第三者ノ行爲又ハ人爲以外ノ勢力ニ因リテ害惡ノ來ルヘキコトヲ通告シ之ヲ畏怖セシメテ財物ヲ交付ヲ受ケタル所爲ハ恐喝取財罪ヲ構成ス(四三年七七八號同年六月七日宣告)

◎(大判) 所揭判示事實ハ被告等ハ他人ニ對シテ官名ヲ詐稱シ且其者ヲ制縛シ以テ不法ニ害惡ヲ加フヘキコトヲ告知シ之ヲ畏怖セシメ金圓ヲ交付セシメタルモノナリト謂フニ在レハ恐喝罪ヲ遂行スル爲ニ官名詐稱及不法制縛ノ所爲ヲ行ヒタルモノナルコト洵ニ明白ニシテ右二個ノ所爲カ恐喝罪ノ具體的犯罪構成ノ事實タルコトハ固ヨリ論ナキモ該所爲ハ寔ニ恐喝罪ヲ犯スニ付キ普通用キラルル手段ニシテ而カモ恐喝罪ノ特別要素ニ屬セザルヲ以テ刑法五四條ニ所謂犯罪ノ手段タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルモノニ該當ス(四三年一五四三號同年一月一日宣告)

◎(大判) 恐喝ニ因リ騙取シタル物件ヲ自己ノ物ナリト詐稱シテ他人ニ賣却シ其代金ヲ受領スルモ該行爲ハ當然恐喝罪ニ包含セラレ別ニ詐欺罪ヲ構成スヘキモノニ非ス(四三年九二〇一七號同年一月二日宣告)

第二百五十五條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(罰則三九七)



◎(大判) 金圓騙取ノ目的ヲ以テ偽造證書ニ基キ訴訟ヲ提起シタル以上ハ詐欺取財ニ着手シタルモノトス而シテ被害者ノ錯誤ニ陥リタルヤ否ヤハ其目的ノ既遂未遂ニ關係ヲ有スルモ着手ナル十否ヤノ問題ニ關係ヲ有スルコトナシ(三〇年四卷九五頁)

◎(大判) 恐喝取財未遂ノ場合ニ於テハ犯人ノ用ヒタル恐喝手段カ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ生セシムヘキ性質ノモノタルヲ以テ足ル而シテ被害者方豫期ノ如ク恐怖ノ念ヲ生シタルヤ否ヤハ未遂罪ノ成立ニ影響ヲ及ボラス、三五年八卷五五頁、三二年一巻四二頁、三五年四卷一四三頁)

◎(大判) 不動産ノ競落人カ裁判所ニ買入代金ヲ納付シタル後取開手段ヲ用キ之レヲ騙取セントシテ送ケサリシ所爲ハ財物騙取未遂罪ヲ構成ス(四二年九七五號同年六月二九日宣言)

**第二百五十一條** 本章ノ罪ニハ**第二百四十二條**、**第二百四十四條**及**第二百四十五條**ノ規定ヲ準用ス  
(舊刑三九八)

◎(二四二) 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

◎(二四四) 直系血族、配偶者及同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ**第二百三十五條**ノ罪及其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

◎(二四五) 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

◎(大判) 刑法實施前親族ニ對シテ詐欺取財未遂罪ヲ犯シタル者カ其當時既ニ起訴セラレタル場合ニハ刑法**第二百五十一條**同第**二百四十四條**ヲ適用スヘキモノニアラス(四二年九八一號同年七月二日宣言)

**第三十八章 横領ノ罪**

**第二百五十二條** 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ(舊刑三九五、三九六)

◎(大判) 湯屋ニ遺忘シタル物品ハ暗黙ノ寄託ナリ(二八年一巻四八頁)

◎(大判) 運送店ニ託シテ差出シタル甲者宛ノ荷物カ誤テ乙者ニ到着シタル場合ニ於テ乙者之ヲ他ニ抵當ニ差入レ金員ヲ費消シタル所爲ハ委託物費消罪ヲ構成ス(三一年九卷七二頁)

◎(大判) 海岸ニ漂着シタル他人ノ所有物ヲ事務管理トシテ保管中擅ニ費消シタル行爲ハ委託物費消罪ヲ構成ス(三九年三五三頁)

◎(大判) 性質上代替物ト雖受託中擅ニ之ヲ費消シタルトキハ委託物費消罪ヲ構成ス(三一年一〇卷四七頁)

**第二百四十七條第二項** 尊屬親其卑屬親ニ對シ、又ハ配偶者ノ一方カ他方ニ對シ、犯シタル竊盜若クハ横領ノ罪ハ之ヲ罰セス  
本條ニ掲ケタル關係ヲ有セサル共犯者又ハ犯罪材提供者ニハ本條ノ規定ヲ適用セス

**第二百四十六條** 他人ニ屬スル動産ヲ占有、又ハ保管スル者不正ニ之ヲ自己ノ所有ト爲シルトキハ横領ノ罪トシ三年以下ノ禁錮ニ處ス、若シ委託ヲ受ケタル物件ナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス、減輕ス可キ情狀アルトキハ九百「マ」以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得  
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス



◎(大判) 假裝ノ買買ニ因リ登記上或土地建物ノ所有名義ヲ有スル者ハ刑法ニ所謂他人ノ物ノ占有者ナリトス從テ其土地建物ヲ擅ニ賣却シタル所爲ハ同法二五二條ノ橫領罪ヲ構成ス(四二年五二四頁)

◎(獨逸帝國裁判所判決) 買買契約成立後不法ニ物ノ引渡ヲ爲ササルノ所爲ハ橫領罪ノ既遂ヲ成立セシム

◎(大判) 自己所有ノ公債證書又ハ株式ト雖身元保證トシテ屋主タル銀行ニ差入レ更ニ銀行ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テハ刑法三九五條(舊)ニ所謂受寄ノ財物ナルヲ以テ擅ニ之ヲ費消シタルトキハ委託物費消罪ヲ構成ス(三五年二卷一三三頁)

◎(大判) 假裝ノ買買ニ因リ登記上或土地建物ノ所有名義ヲ有スル者ハ刑法ニ所謂他人ノ物ノ占有者ナリトス從テ其土地建物ヲ擅ニ賣却シタル所爲ハ同法第二百五十二條ノ橫領罪ヲ構成ス(四二年九三九四號同年四月二十九日宣告)

◎(大判) 橫領罪又ハ舊刑法ノ委託物費消罪ニ於ケル騙取若クハ詐欺ノ所爲ハ其金品ノ橫領費消等ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シ之ヲ施スヲ以テ足り必シモ該金品ノ處分ニ付キ意思能力ト行爲能力トヲ兼有スル者ニ對シテ之ヲ施ササルヘカラサルモノニ非ス(四二年九四五號同年五月二一日宣告)

◎(大判) 他人ヨリ金錢ノ寄託ヲ受ケタル者力其委託ノ本旨ニ違ヒテ擅ニ之ヲ費消スルトキハ刑法ニ所謂橫領ノ罪ヲ構成ス而シテ費消者力之ヲ辯償スル資力又ハ意思ヲ有スルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ(四二年九六六號同年六月十日宣告)

◎(大判) 一、委託物費消罪(橫領罪)ノ目的ハ他人ノ所有物ナラサルヘカラス從テ債權其モノハ本罪ノ目的物タルコトヲ得サルモノトス二、他人ノ所有ニ屬スル債權證書ヲ保管中擅ニ之ヲ債務者ニ交付シ債權者ヲシテ債權證明ノ具ヲ喪失セシメタル所爲ハ委託物費消罪ヲ構成ス(四二年九一五八二號同年一月二十五日宣告)

◎(大判) 刑法第二百五十二條第一項ニ所謂橫領トハ犯人力占有スル他人ノ物ニ關シ權利ナキ處分行爲ヲナスノ義ナリ(四二年九七八〇號同年七月一日宣告)

◎(大判) 軍人テ觀望シ又ハ艦隊ヲ訪問スルカ如キハ町村制上町ノ行政ニ屬スル公共事務ニ非ス從テ被告カ町ノ公金ヲ保管スルモノト共謀シ擅ニ該金圓ヲ軍人ノ觀望又ハ艦隊ノ訪問費ニ支出消費シタル所爲ハ委託金費消罪ヲ構成ス(四二年九八八〇號同年七月二十七日宣告)

◎(大判) 舊刑法ノ委託物費消罪及ヒ刑法ノ橫領罪ハ共ニ委託物ヲ橫領スル意思ヲ實行スルニ因テ成立スルモノナルカ故ニ詐欺ノ手段ヲ以テ橫領ノ意思ヲ實行スル場合ニ於テハ委託物ヲ橫領スルノ目的ヲ達スルニ付キ法律上又ハ事實上ノ關係ヲ有スル人ニ對シ詐欺ノ所爲アルヲ以テ足り其物ノ引渡ヲ受ケヘキ權利者ニ對シ詐欺ノ所爲アリタルト否トハ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ボサス(四二年九五八號同年九月二十三日宣告)

◎(大判) 舊刑法ノ委託物費消罪及刑法ノ橫領罪ハ共ニ委託物ヲ橫領スルノ意思ヲ實行スルニ因テ成立スルモノナルカ故ニ詐欺



ノ手段ヲ以テ横領ノ意思ヲ實行スル場合ニ於テハ委託物ヲ横領スルノ目的ヲ達スルニ付法律上又ハ事實上ノ關係ヲ有スル人ニ對シ詐欺ノ所爲アルヲ以テ足り其物ノ引渡ヲ受ク可キ權利者ニ對シ詐欺ノ所爲アリタルト否トハ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ボサス(四二年九五八號同年九月二三日宣言)

◎(大判) 横領罪ニ於ケル横領トハ他人ノ物ヲ不法ニ領得スルノ意思ヲ實行スルコト即チ物ノ經濟的價值ヲ不法ニ領得スルコトヲ指稱スルモノナルヲ以テ其態様ハ一ナラス或ハ財物ノ委託者若ハ其他ノ利害關係人ニ對シテ欺罔手段ヲ施シ以テ横領ノ意思實行ヲ爲ス場合アレハ欺罔ハ詐欺罪ノミニ固有ナル要件ニシテ横領罪ノ觀念ト相容レヌトノ論旨ハ蓋シ其當ヲ得サルモノトス(四二年九二〇四九號四三年二月七日宣言)

◎(大判) 自己ノ占有セル他人ノ財物ヲ横領スルニ付欺罔手段ヲ用キタル場合ニ於テ犯人カ財産上不法ノ利益ヲ得タリトスルモ是レ横領罪當然ノ結果ニ外ナラサレハ別ニ詐欺罪ヲ構成スヘキモノニ非ス(同上)

◎(大判) 他人ニ交付スル爲委託ヲ受ケタル金圓ヲ擅ニ其委託者ニ對シテ有スル債權ノ辨濟ニ充當シタル以上ハ他人ノ金圓ヲ横領セシモノナルヲ以テ債權ノ存在ハ犯罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ(四二年九二一四五號四三年二月一七日宣言)

◎(大判) 横領罪ノ成立ニハ常ニ必スシモ犯人ニ於テ保管ニ係ル金品ヲ有形的ニ費消シ又ハ之ヲ自己ノ財産ニ組入レ又ハ本人ノ請求ニ對シテ之カ返還ヲ拒ミタル事實アルコトヲ要スルモノニ

非ス犯人カ其金品ヲ不正ニ領得スル目的ヲ以テ之カ返還ヲ免カルヘキ事實上ノ狀態ヲ作爲シタル場合ニ於テモ本罪ノ成立ニ必要ナル領得ノ要件ヲ具備セルモノトス(四三年九二二三二號同年七月一日宣言)

◎(大判) 自己ノ占有ニ係ル他人ノ金銀ヲ横領スルニ當リ詐欺ノ手段ヲ用フルモ其所爲ハ横領罪ニシテ詐欺罪ニ非ス(四三年九一三四〇號同年七月二六日宣言)

◎(大判) 公債證書ノ寄託ヲ受ケタル者カ擅ニ他人ニ對シ商品仕入代金ノ擔保ニ供スルコトヲ承諾シテ之ヲ交付シタルトキハ即時ニ横領罪ヲ構成ス而シテ被交付者カ該證券ヲ任人先ニ交付シテ使用ノ目的ヲ達ケタルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス(四三年九一四五四號同年九月一六日宣言)

◎(大判) 金錢ノ如キ代替物ノ横領罪ハ通常現ニ横領シタル數額ニ對シテ成立スヘキモノナルモ本件ノ如ク十圓紙幣一枚ヲ當事者ノ意思ニヨリ特定物トシテ寄託サレタル場合ニ於テハ委託者ノ擅ニ處分シタル數額ニシテ總シ計算上受託額ノ幾分ニ過キストスルモ猶且受託物ノ全部ニ對シテ横領罪成立スルモノトス(四三年九一四一二號同年九月二七日宣言)

◎(大判) 苟モ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不正ニ領得シタル以上ハ即時ニ横領罪成立スルモノトス而シテ其領得以後該目的物ニ對スル處分行爲ノ如キハ更ニ別罪ヲ構成スヘキモノニ非ス次ニ自己ノ占有スル他人ノ不動産ヲ不正ニ領得シタル後之ヲ他ニ賣却シタル所爲ニ對シ順次ニ二個ノ横領罪ヲ構成スルモノト認メ



タル弊決ハ不法ナリ (獨三年九一八八四號同年一〇月二五日宣  
告)

◎(大判) 横領罪ノ成立ニ必要ナル横領ノ行為ハ犯人カ他人ノ物  
ヲ自己ノ物トシテ不正ニ領得スルノ意思ヲ有シ此意思アリト認  
ムヘキ外部行為ヲ實行シタルノミヲ以テ足り必スシモ其目的物  
ニ對シ消費交換若ハ贈與等ノ處分行為ヲ爲スコトヲ要セス(四  
三年九二一八〇號同年二月三日宣告)

**第二百五十三條** 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ  
横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
(舊刑二八九、二九一)

◎(大判) 刑法第二百五十三條ハ其所謂業務及ヒ他人ノ範圍ニ付  
キ何等ノ制限ヲ爲サレハ業務トハ總テノ職務若クハ職業ヲ汎  
稱シ其執ル所ノ事務カ自己ノ爲メタルト否トテ區別セス又他人  
トハ自己以外ノ者ヲ總稱シ其占有スル物ノ所有カ他人ニ屬スル  
ヤチ間ハサルモノトス(四二年九三八二號同年六月三日宣告)

◎(大判) 仲立人カ其媒介シタル行為ニ付當事者ノ一方ヨリ受領  
セル金品ハ横領シタル所爲ニ對シ刑法二五三條ヲ適用スルニハ  
其受領行為ハ民法三〇七條所定ノ見本ニ關スルモノナルカ又ハ  
當事者ノ意思表示若ハ慣習上之ヲ其業務ニ屬スルモノト爲シタ  
ル事實ヲ判定セサルヘカラス(四二年九二〇五六號四三年二月  
一五日宣告)

**第二百五十四條** 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタ

**第三百五十條** 官吏、其職務上受領シ又ハ保管セル金銀其他ノ物件  
ヲ横領シタルトキハ三月以上ノ禁錮ニ處ス尙公權ヲ剥夺スルコト  
ヲ得  
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

ル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ  
百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス(舊刑三八五、三八  
六)

**第二百五十五條** 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規  
定ヲ準用ス(舊刑三九八、三八七)

(二四四) 直系血系、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於  
テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除  
シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

**第三十九章 贓物ニ關スル罪**

**第二百五十六條** 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ  
懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ  
十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス(舊刑三  
九九、四〇一)

◎(大判) 贓物ヲ牙保、故買、收受、寄藏スル所爲ハ被害者ヲシ  
テ贓物ノ發見ヲ困難ナラシメ若ハ其回復請求權ノ行使ヲ困難ナ  
ラシメ時トシテ之ヲ不能ナラシムルノ結果ヲ生シ若クハ之ヲ生  
スルノ危險アリ以テ財産ノ不法占有ヲ安全ナラシムルニ至ルノ  
ミナラス主犯者ノ罪跡ヲ湮滅スルノ虞アルヲ以テ之ヲ罪トシ罰

**第二百五十九條** 犯罪ニ因リ得タルノ情ヲ知り又ハ其狀況ニヨリ之  
ヲ知ラサル可ラサル物件ヲ自己ノ利益ノ爲メ寄藏、故買若クハ其  
物トシテ收受シ、其他之ヲ領得シ、又ハ共ニ之ヲ販賣シタル者ハ  
隠私者トシテ禁錮ニ處ス



スルモノナリ(三九年八〇八號)

◎(大判) 刑法四〇一條(舊)ニハ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關スル物件トアリテ何等ノ制限ナシ從ヒテ收賄罪ニ因テ得タル物件ヲ除外シタルモノニ非ス(三五年二卷八九頁)

◎(大判) 委託物費消罪ハ未遂ノ場合ニ於テモ尙之ヲ罰ス故ニ甲カ乙ヨリ委託セラレタル物件ヲ丙ニ賣渡サントシ其行爲ニ著手シタルトキハ既ニ犯罪行爲アリタルモノトス從テ其物件ハ賣買成立前既ニ委託物費消罪ニ關スル物件トナリタルモノナルヲ以テ其情ヲ知リ之ヲ故買シタル丙ノ所爲ハ刑法四〇一條(舊)ニ該當ス(三五年一卷一一頁)

◎(大判) 盜贓タルノ情ヲ知テ之ヲ買受ケタル以上ハ縱令賣主カ親戚和盜ノ爲其罪ヲ問ハレサルモ贓物故買罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ(三七年二二五二頁)

◎(大判) 十二歳以下ノ幼者ヲ竊ニ他人ノ財産ヲ持出シタル行爲ハ犯罪ヲ構成セス從テ其物件ヲ收受スルモ贓物ニ關スル罪ヲ以テ論スルコトヲ得ス(三二年五卷七〇頁)

◎(大判) 贓物故買罪ハ贓物タルノ情ヲ知テ之ヲ故買スルニ因リ成立ス從テ竊盜犯人ニ對スル公訴及ヒ私訴カ時效ニ因リ消滅シタルヤ否ヤハ犯罪ノ成否ニ何等ノ關係ナシ(四二年四三五頁)

◎(大判) 竊盜ノ贓物ト雖善意ノ占有者カ其盜品ニ對シ所有權ヲ取得シタル以上ハ完全ナル處分權ヲ得ルモノトス從テ該占有者ヨリ其物件ヲ收受シ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ縱令情ヲ知テ之ヲ行フモ贓物ニ關スル罪ヲ構成スルモノニ非ス

(三九年二〇四頁)

◎(大判) 買主カ買買ノ後ニ至リ目貨物・贓物タルコトヲ知テ其引渡・受ケタル所爲ハ贓物故買罪ヲ構成ス(三九年九六三頁)

◎(大判) 賣主ニ於テ盜贓タルコトヲ知ルト否トヲ問ハス買主ニ於テ盜贓タルノ情ヲ知テ之ヲ買受ケタル以上ハ盜贓故買罪ヲ構成ス(三二年一卷二五頁)

◎(大判) 竊盜教唆罪ト贓物故買罪トハ法律上其罪質ナ同クセサルカ故ニ縱令被告人カ教唆シテ竊取セシメタル贓物ヲ故買シタリトスルモ其故買ノ所爲ハ竊盜教唆罪ニ吸收セラルヘキモノニアラス(四二年九號同年三月十六日宣言)

◎(大判) 贓物ニ關スル罪ハ寄藏タルト故買タルトヲ問ハス犯罪ニ因リ收得セラレタル物件ナル事ヲ知り乍ラ之ヲナスニ依リテ成立シ執レモ同一ノ法律ノ下ニ同一ノ刑ヲ適用スヘキ犯罪ナリトス從テ第一審裁判所カ贓物寄藏ト判定シタル所爲ニ對シ第二審裁判所ニ於テ贓物故買ト認定スルモ之カ爲ニ第一審判決ヲ取消スヘキモノニアラス亦贓物故買罪ハ贓物タルノ情ヲ知テ之ヲ故買スルニ因リ成立ス從テ竊盜犯人ニ對スル公訴及ヒ私訴カ時効ニ因リ消滅シタルヤ否ヤハ犯罪ノ成否ニ何等ノ關係ナシ(四二年九二號同年四月一五日宣言)

◎(大判) 荷毛贓金タルコトヲ知テ之ヲ收受費消シタル以上ハ自己ノ犯罪ニ因リ被害者チテ贓金返還ノ請求權ヲ行使スルコトヲ得サラシメタルモノナルカ故ニ其損害ヲ賠償スヘキ義務アルモノトス(四二年九六七四號同年六月一七日宣言)



◎(大判) 自己ノ占有スル他人ノ物件ヲ横領シタル場合ニ在テハ其物件ハ占有者カ權限外ニ於テ之ヲ處置シタルモノナレハ其處分行爲ト同時ニ贓物ヲ組成スルモノトス(四二年九一八六三號四三年一月一七日宣告)

**第二百五十七條** 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス  
親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

**第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪**

**第二百五十八條** 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑二〇二二、二〇三二、二〇五二、二〇七)

◎(大判) 官文書トハ必スシモ官吏ノ作成シタル文書ノミヲ謂フモノニ非ス從テ一私人ノ作成シタル文書ト雖之ヲ官廳ニ於テ保存ス可キ文書ナル以上ハ官ノ記録又ハ官ノ帳簿ニ外ナラサルヲ以テ官文書ナリトス(三六年一一三〇頁)

◎(大判) 登記官吏ノ受理シタル登記申請書申登錄稅印紙貼用ノ部分ハ該印紙ニ對シ消印ノ手續ヲ了シタルト否トナ問ハス申請書ト一體ヲ爲スモノニテ該文書ハ其貼用印紙ト相待テ法律上登記申請書タル效力ヲ有スルモノトス從テ登記官吏カ職務上保管

**第三百三十三條**

官ニ於テ其官掌ノ爲メ定メタル場所ニ保存シ又ハ官吏若クハ他人ニ職務上交付セラレタル文書、帳簿、證書其他ノ物件ヲ故意ニ破棄、隱匿、又ハ毀損シタル者ハ禁錮ニ處ス  
前項ノ行爲カ收益ノ目的ニ出テタルトキハ三月以上ノ禁錮ニ處ス尙公權ヲ剝奪スルコトヲ得

**第三百三十四條**

公然揭示セル官廳若クハ官吏ノ布達、命令、處分若クハ告示ヲ故意ヲ以テ破棄、毀損、又ハ變換シタル者ハ三百「マーク」以下ノ罰金又ハ六月以下ノ禁錮ニ處ス

**第三百七十四條**

左ニ掲グル者ハ禁錮ニ處ス、尙三千「マーク」以下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得  
第一、他人ニ損害ヲ加ヘンカ爲メ自己ノ所有又ハ專有ニ屬セザル

證書ヲ破棄、毀損、又ハ隱匿シタル者

**第三百四十八條第二項**

職務上委託セラレ若クハ占有セル證書ヲ故意ヲ以テ破棄、隱匿若クハ毀損又ハ之ヲ變造シタルトキハ一月以上ノ禁錮ニ處ス

**第三百三十三條**

官ニ於テ官掌ノ爲メ定メタル場所ニ保存シ又ハ官吏若クハ他人ニ職務上交付セラレタル文書、帳簿、證書其他ノ物件ヲ故意ニ破棄、隱匿、又ハ毀損シタル者ハ禁錮ニ處ス  
前項ノ行爲カ收益ノ目的ニ出テタルトキハ三月以上ノ禁錮ニ處ス尙公權ヲ剝奪スルコトヲ得

**第三百七十四條**

左ニ掲グル者ハ禁錮ニ處ス、尙三千「マーク」以下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得  
第一、他人ニ損害ヲ加ヘンカ爲メ自己ノ所有又ハ專有ニ屬セザル證書ヲ破棄毀損又ハ隱匿シタル者

**第三百四十八條第二項**

職務上委託セラレ若クハ占有セル證書ヲ故意ヲ以テ破棄、隱匿、若クハ毀損、又ハ之ヲ變造シタルトキハ一月以上ノ禁錮ニ處ス

**第二百六十五條**

詐欺ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ火災保險ヲ附シタル物件ヲ燒燬シ又ハ船體、積荷若クハ運送貨ヲ保險シタル船舶ヲ覆没シ、又ハ破船セシメタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ百五十「マーク」

**第二百五十九條**

權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑四二四)

◎(大判) 他人ノ帳簿ヲ抹消シ其效力ヲ失ハシメタル所爲ハ器物毀棄罪ヲ以テ論ス(二九年二卷九六頁)

◎(大判) 保證人トシテ證書ニ連署シタル者カ其職務ヲ免レンカ爲債權者ヨリ證書ノ交付ヲ受ケ擅ニ證人ノ文字ヲ立會人ト變更シ之ヲ返付シタル所爲ハ證書ノ變造行使罪ニ非スシテ刑法四二四條(舊)ニ所謂人ノ權利義務ニ關スル證書毀棄罪ヲ構成ス(三七年三三四頁)

◎(大判) 證書毀棄ノ罪ハ權利義務ニ關スル證書ノ所有者又ハ所持者ヲシテ其權利義務ニ關スル證據ノ全部又ハ一部ヲ失却セシムルノ目的ヲ以テ之ヲ毀損シ其全部又ハ一部ヲ利用シ得サルニ至ラシムル行爲ノ全體ナリ(三九年一〇五九頁)

**第二百六十條** 他人ノ建造物又ハ船舶ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタ



ル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス(舊刑四一七)

以上六千「マーク」以下ノ罰金ニ處ス  
減輕ス可キ情狀アルトキハ六月以上ノ禁錮ニ處ス、尙三千「マ  
ク」以下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得

第三百三條 故意ヲ以テ不正ニ他人ノ物件ヲ毀損、又ハ破壞シタル者ハ「千マーク」以下ノ罰金又ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ノ罪ハ親族ニ對スルモノナルトキハ告訴ハ之ヲ取下クルコトヲ得

第三百五條

故意ヲ以テ不正ニ他人ノ所有セル建築物、船舶、橋梁、堤防、街道、鐵道、其他ノ工作物ノ全部又ハ一部ヲ破壞シタル者

ハ一月以上ノ禁錮ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百七十四條

左ニ掲クル者ハ禁錮ニ處ス、尙三千「マーク」以下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得

第二 他人ニ損害ヲ加ヘンカ爲メ界標、其他境界若クハ水平ヲ標示ス可キ物件ヲ奪取、破壞、移轉、偽設又ハ不分明ニ爲シタル者

第三百三條

故意ヲ以テ不正ニ他人ノ物件ヲ毀損、又ハ破壞シタル者ハ千「マーク」以下ノ罰金又ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ノ罪ハ親族ニ對スルモノナルトキハ告訴ハ之ヲ取下クルコトヲ得

第三百四條

故意ヲ以テ不正ニ國內ノ教會ノ寶物、禮拜ノ爲メ奉獻セル物件、墓碑、公ケノ記念碑、博物館ニ保在陳列セル學術技藝營業ニ關スル物件、公共ノ使用ニ供シ又ハ公道公園若クハ公共ノ建築物ノ裝飾ニ供セル物件ヲ毀損シ、又ハ破壞シタル者ハ三年以下

ノ禁錮又ハ千五百「マーク」以下ノ罰金ニ處ス

禁錮ニ處スルトキハ公權ヲ剝奪スルコトヲ得

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三百五條

故意ヲ以テ不正ニ他人ノ所有セル建築物、船舶、橋梁、堤防、街道、鐵道、其他ノ工作物ノ全部又ハ一部ヲ破壞シタル者

ハ一月以上ノ禁錮ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損

壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓

以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス(舊刑四一八乃至四二二)

◎(獨逸帝國裁判所判決) 動物ニ精神的疾病ヲ發作セシメタルノ所爲ハ此一事ヲ以テ物ノ毀壞タルニ充分ナリトス

◎(大判) 刑法四二一條及二六一條(舊)所謂毀棄若ハ損壞トハ實ニ物質的ニ器物其他ノ形體ヲ變更又ハ滅盡セシムル場合ノミナラス事實上若ハ感情上其物ヲシテ再ヒ本來ノ目的ノ用ニ供シ能ハサル状態ニ至ラシメタル場合ヲモ包含スルモノトス(四二年四五二頁)

◎(獨逸帝國裁判所判決) 經濟的價值ナキモノト雖毀棄罪ノ客體タルコトヲ得ルモノナンハ毀棄ニ依ル其物ノ價格ノ増減ハ必スシモ毀棄罪ノ成否ヲ區別スルノ標準ト爲ルコトナシ

第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス



法典便覽全書 卷刑法典附錄

● 日本刑法施行法

第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑  
法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅  
令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ  
付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第  
十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

死刑	死刑
無期懲役	無期徒刑
無期禁錮	無期流刑
有期懲役	有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
有期禁錮	有期流刑、重禁錮、輕禁錮、輕禁錮
罰金	罰金
拘留	拘留
科料	科料

(刑法九) 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ  
附加刑トス

(刑法一〇) 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有  
期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ

二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス  
同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長  
期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノ  
ヲ以テ重シトス

第二條 二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ  
同種ノ刑ハ其輕重ニ依リ其輕重ヲ定ム

第三條 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可  
キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ  
數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪併發ニ關スル規定ヲ適  
用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ  
一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑  
中其一個ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス  
可シ併合罪又ハ數罪併發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス  
可キトキ亦同シ

(四) (大判) 刑法施行法第三條第三項ノ規定ハ選擇刑ノ場合ニ於テ  
ハ法律ニ依リ刑ヲ加重減輕スヘキトキ又ハ酌量減輕ヲ爲スヘキト  
キト雖モ先ツ最モ重キ刑ヲ選擇スル事ヲ必要トシ其餘ノ輕キ刑  
ヲ選擇シテ以テ新舊法ノ輕重ヲ定ムル標準トナスコトヲ許サザ  
ル旨趣ニ外ナラス(四二年九六六四號同年七月一日宣告)

第四條 刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論  
ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セザルモノト  
雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於



テハ罰金公債、停止公債、監視又ハ罰金を附加ス可キト雖モ之ヲ附加セズ

(刑法六〇) 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルキハ其輕キモノヲ適用ス

第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一 確定裁判アリタル罪ニ罰刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

二 確定裁判アリタル罪ニ罰刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ罰刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト併合罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト併合罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷

セラントル者ニ之ヲ適用ス

(刑法五六、三) 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ罰刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キト雖モ其罪ト併合罪トニ付キ

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ罰刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キト雖モ併合罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ刑ヲ定メタル一ノ重キ罪ト併合罪トニ付キ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ト併合罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用ス

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ罰刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖

モ其罪ト併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該罪ト併合罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用ス

第十三條 刑法施行後ハ罰刑法又ハ他ノ法律施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ適用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞務場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

第十四條 刑法施行後ハ罰刑法又ハ他ノ法律施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ適用ス

第十五條 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ適用ス

刑罰執行前罰金又ハ科料ヲ納完セザル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者 付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ適用ス、但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

(刑法一八) 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞務場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞務場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡、爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日以内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ金額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

(刑法三〇) 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ



第十七條 閣席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十八條 剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ、但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セズ

附加ノ罰金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

(六判) 刑法施行法第十九條ニ所謂他ノ法律トハ同第一條ニ於ケル舊刑法以外ノ法律ヲ指稱ス從テ舊刑法ノ刑名ニ變更セラレタルモノニ非ス(四二年九三六號同年五月一三日宣告)

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セズ但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ

相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

爆發物取締規則第十條ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス(四十二年法律第三十九號四十二年同第五十三號ヲ以テ本條中刪除)

一 第二編第四章第七節及ヒ第九節

二 第二編第五章第三節

三 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

### 第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

#### 第四章 信用ヲ害スル罪

##### 第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ濫用シタル時ハ爲造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處罰ス

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス

第二百二十九條 商賈工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ此度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取罪ヲ以テ論ス

#### 第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(大判) 一、公選ノ選舉投票ヲ偽造シテ投函其他ノ方法ニ依リ之ヲ行使シ眞正ナル投票アリシカ如ク詐リタル所爲ハ公選ノ投票偽造(舊二二三條)ヲ完成ス二、舊刑法二三三條ニ公選ノ投票ヲ偽造シタルハ其投票力記名式ナルト否トチ間ハス現ニ眞正ニ投票シタルモノヲ偽造セル場合ノ外未タ投票セサル以前ニ之ヲ偽造シテ投票シタル場合ヲ包含スルモノトス三、公選ノ投票ヲ偽造スル罪ノ成立ニハ其偽造ニ係ル投票ト眞正ノ投票ヲ識別シ得ヘキコトヲ要セス(四二年九一五〇基同年一〇月一八日宣告)

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票

ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

#### 第五章 健康ヲ害スル罪

##### 第二節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス



第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第二章 財産ニ對スル罪

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ負債

ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知テ虛偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

○(大判) 家資分散(舊三八八條)トハ強制執行處分ニ依リ債務ヲ

辨濟スル實力ナキ狀況ヲ指稱スルモノトス從テ刑法ノ家資分散

ニ關スル罪ハ家資分散ノ決定宣告前ニ於テ成立ス(三四年九卷

一二九頁)

○(大判) 刑法三八八條(舊)ニ所謂家資分散トハ債務者ガ民事訴

訟法ノ強制執行處分ニ依リ債務ヲ辨濟スルノ實力ナキ狀態ヲ指稱

シタルモノトス(三六年三四六頁)

○(大判) 被告ニ家資分散ノ事實アリトスルニハ必スシテ分散ノ

決定アルコトヲ要セザレトモ強制執行ノ結果其債務ヲ辨濟シ能

ハサル事實ノ確定シタルコトヲ要ス(四〇年三八六頁)

○(大判) 家資分散ニ關スル罪ヲ構成セシムルニハ民事裁判有所ニ

於テ家資分散ノ宣告アリタルコトヲ必要トセス(二九年三卷二

四頁、三四年二卷三六頁)

第三百八十九條 家資分散ノ際賤價ノ類ヲ藏匿脱漏シ若クハ分散決

定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シ

タル者ハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

○(大判) 刑法三八九條(舊)ニ所謂分散ノ決定トハ債務者ノ財産

處分ヲ開始スル決定ニシテ執行爲ノ完了前ニ宣告セラル可キ

モノトス從テ家資分散法ニ規定セル分散ノ決定ノ如キハ之ヲ包

含スルコトナシ(三七年三八六頁)

(刑法八)本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之

ヲ適用ス但本法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

○(大判) 一、刑法施行法二五條ニ據テ舊刑法ノ規定ハ刑法ニ

於テ之ヲ特別法ニ讓リ同法中其規定ヲ散ケサルヲ以テ當分罰刑

法ノ規定ヲ其儘存續シ刑法施行前同ノ效力ヲ有シタルモノ

トス二、刑法施行法二五條ニ依リ舊刑法二二九條二項ノ刑罪ハ

同法ニ定メタル詐欺取財ヲ以テ論スヘキモノナレバ該條項ノ規

定ハ刑法ノ詐欺ノ財ニ關スル規定ニ變更セラレタルモノトス

(四一年九一二九號四二年三月五日宣告)

第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

一 軍機保護法ニ據ケタル罪

二 徵兵令ニ據ケタル罪

三 明治三十八年法律第六十六號ニ據ケタル罪

四 通貨及證券模造取締法ニ據ケタル罪

五 船舶法ニ據ケタル罪

六 船員法ニ據ケタル罪

七 船舶職員法ニ據ケタル罪

八 船舶検査法ニ據ケタル罪

九 戶籍法ニ據ケタル罪

十 郵便法ニ據ケタル罪

十一 (四十二年法律第三十九號ヲ以テ削ル)

第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一 著作權法ニ據ケタル罪

二 重要財産同業組合法ニ據ケタル罪

三 移民保護法ニ據ケタル罪

第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ揭

ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ

第二十九條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル

罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

○(大判) 他ノ法律ノ適用上舊刑法ノ重罪ト看做スヘキモノハ刑

法施行法二九條ニ於テ之ヲ規定シ同三三條ハ則チ然ラス同條ハ

舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス場合ヲ規定シタ

ルモノナリ(四二年九二〇六二號四三年二月一五日宣告)

○(民刑局長回答) 舊法施行中ニ犯シタル持兇器竊盜罪ハ新法施

行後ニ於テモ必ス豫審ヲ求ルヲ必要トスルヤニ付テハ左ノ如ク

解スヘキモノトス

其適用スヘキ法律ニ依リ重罪ナルトキハ豫審ヲ求メ否ラサル場

合ニ於テハ之ヲ要セサルモノトス(四一年一〇月九日民刑甲三

四三號)

第三十條 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他

ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス



法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受ケルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

第三十七條 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケザリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

(舊刑三) 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一 國民ノ特權
  - 二 官吏ト爲ルノ權
  - 三 勳章年金位記號恩給ヲ有スルノ權
  - 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
  - 五 兵船ニ入ルノ權
  - 六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
  - 七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス
- 入 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

(舊刑三) 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第三十八條 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條 公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

- 一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年
- 二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年
- 三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年
- 四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

- 五 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年
- 六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第三十九條 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

第三 區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢察官ニ送致ス可シ

第四十條 刑事訴訟法第百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

- 第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ祭祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

第四十一條 刑事訴訟法第百二十六條第一項中「刑法第百八十條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改メ同條第二項中

「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第百三十八條中「刑法第百七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第百四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十二條 刑事訴訟法第百六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

第四十三條 刑事訴訟法第百七十二條ヲ左ノ如ク改ム

第百七十二條 檢察官免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 刑事訴訟法第百三十六條中「輕罪、重罪」ヲ削ル

第四十五條 刑事訴訟法第百四十一條ヲ左ノ如ク改ム

第百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス可シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 刑事訴訟法第百六十四條中「更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ」ヲ削ル

第四十七條 刑事訴訟法第百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主體ノ執行ハ其重キモノヲ先

ニス但特別ノ事由アルトキハ檢察官ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 刑事訴訟法第百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢察官及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢察官又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 刑事訴訟法第百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一 心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ

三 受胎後七月以上ナルトキ

四 分娩一月ヲ經過セザルトキ

第五十條 刑事訴訟法第百二十條中「之ヲ爲ス可シ」ノ下ニ「刑ノ執行ヲ停止ニ付キ亦同シ」ヲ加ヘ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 刑事訴訟法第百二十四條、第六十三條、第六十八條、第七十三條及ヒ第七十四條但書ハ之ヲ削ル



第五十二條 刑事訴訟法中復讐及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ論事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

(刑法五二) 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

(刑法五八) 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第五十四條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第五十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟

法ノ規定ヲ適用ス

第五十八條 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケル猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス

一 豫審、公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑定人及ヒ通事ニ給與ス可キ日當、旅費及ヒ止宿料

二 第六十六條ニ記載シタル費用

第六十三條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セズ

二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金三十錢乃至金五十錢

第六十四條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢乃至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但道路兩線以上アルトキハ最近ノ道路ヲ以テ旅費ヲ算定ス前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付金二十錢乃至金一圓ノ範圍

内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルトキニ非サレハ之ヲ給與セズ

(大判) 刑法施行法第六十三條及ヒ第六十四條ニ所謂證人ハ宣誓ヲ爲サシメタル證人ノ外委考人ヲモ包含スルモノトス(四二一年九一三二九號同年一月一日宣言)

第六十五條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當、旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前、公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セズ

第六十六條 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第六十七條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トス

附 則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

●警察犯處罰令(明治四十一年九月二十九日)

警察犯處罰令左ノ通り之ヲ定ム

警察犯處罰令

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

一 故ナク人ノ居住若ハ看守セザル邸宅、建造物及船舶内ニ潛伏シタル者

二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者

三 一定ノ住居又ハ生業ナクシテ賭方ニ徘徊スル者

四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ料料ニ處ス

一 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者

二 乞巧ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者

五 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

六 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

七 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者

八 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者

九 祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

十 自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者

前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者

十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧嘩シ、横臥シ又ハ泥



- 醉シテ徘徊シタル者
- 十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘル行爲ヲ爲シタル者
- 十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
- 十四 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 十五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虚報ヲ爲シタル者
- 十七 妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱、符呪等爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者
- 十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 二十 官職、位記、勳爵、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者
- 二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
- 二十三 河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨ケヘキ行爲ヲ爲シタル者

- 二十四 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
- 二十六 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚損シ若ハ撤去シタル者
- 二十七 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官更ヨリ援助ノ求テ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者
- 二十八 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者
- 二十九 他人ノ田野、園圃ニ於テ榮果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
- 三十 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
- 三十一 濫ニ他人ノ身邊ニ立寄り又ハ追隨シタル者
- 三十二 他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ボスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者
- 三十三 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚損シタル者
- 三十四 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者
- 三十五 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 三十六 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者

- 三十七 濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 第三條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ二十四未満ノ科料ニ處ス
- 一 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レガ保存ヲ爲シタル者
- 二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、裸體シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
- 三 街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 四 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者
- 五 家屋其ノ他ノ建造物若クハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者
- 六 石炭其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者
- 七 開業ノ醫師、産婆故ナク病者又ハ妊婦、産婦ノ招キニ應セサル者
- 八 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
- 九 炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
- 十 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レガ取除ノ義務ヲ怠リタル者
- 十一 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
- 十二 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ吠シ又ハ驚逸セシメタル者
- 十三 狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者

- 十四 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
- 十五 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚損シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚損シ若ハ撤去シタル者
- 十六 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
- 十七 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬踏車ヲ牽入レタル者
- 第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シテ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得
- 附 則
- 本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
- ◎大判 警察犯處罰令ハ刑法八條ニ依リ同法總則ノ適用ヲ受ケヘキモノトス故ニ裁判所ガ被告ノ犯シタル竊盜罪ト警察犯處罰令ノ罪トヲ以テ併合罪トシ刑法五〇條ヲ適用シタルハ正當ナリ
- (四二年九二三〇號四三年三月一日宣言)



明治四十四年五月十四日印刷  
明治四十四年五月十七日發行

刑法典與附  
正價金六拾五錢

不許  
複製

編輯者兼  
行輯者

帝國成法會  
東京市下谷區御徒町一丁目四十七番地

右代表者

清水治三郎  
東京市本郷區千駄木町四十九番地

印刷者

白土幸力  
東京市神田區美土代町二丁目一番地

發行所

東京市本郷區千駄木町四十九番地

電話取次下谷二六四

帝國成法會支部

印刷所 東京市神田區美土代町二丁目一番地 三光堂



● 謹 告

法典便覽全書及六法典ニ關スル一切之  
事項ハ爾後左記箇所ニ於テ御取扱可申  
候

東京市本郷區千駄木町四十九番地

帝國成法會支部

電話取次下谷二六四

民事刑事並行  
政訴訟事件ノ  
依頼ニ應ス

東京市下谷區御徒町一丁目四十七番地

辯護士 阿保淺次郎

東京市京橋區南鞘町二十二番地

辯護士法學士  
特許辨理士 長澤越一郎

特許事務ニ付テハ工學士杉村信近氏ト商議ス

帝國成法會編  
準用條文  
特載 六法典  
東京帝國成法會發行  
其他各法典毎ニ懇切丁寧ニ一々準用條文ヲ特載セシモノヲ發刊ス

正價金壹圓貳拾錢 郵税金拾貳錢  
豫約特價金壹圓(豫約金不申受)  
製本出來期限 明治四十四年十月五日  
特價申込期限 同年九月五日



法典便覽全書 第二卷

帝國成法會編

民法典 完

東京 帝國成法會發行

●製本出來期限 明治四十四年七月五日  
●特價申込期限 同 年六月二十日

洋裝菊版約七頁 正價金壹圓 特約金壹圓  
豫約金拾貳錢 (受申不約金)

法典便覽全書 第三卷

帝國成法會編

商法典 完

東京 帝國成法會發行

●製本出來期限 明治四十五年四月五日  
●特價申込期限 同 年三月五日

洋裝菊版約六頁 正價金壹圓 特約金壹圓  
豫約金拾貳錢 (上同)



法典便覽全書  
第四卷

帝國成法會編

刑事訴訟法典 完

東京 帝國成法會發行

●製本出來期限 明治四十五年六月五日

●特價申込期限 同年五月五日

洋裝正約 菊價特約 版金價八錢 約八錢 四拾六錢 百拾五錢 (上同) 郵稅金八錢

法典便覽全書  
第五卷

帝國成法會編

民事訴訟法典 完

東京 帝國成法會發行

●製本出來期限 明治四十五年八月五日

●特價申込期限 同年七月五日

洋裝正約 菊價特約 版金價八錢 約八錢 六拾五錢 百拾五錢 (上同) 郵稅金八錢



◎法典便覽全書並六法典正價及特價ノ割引

十部以上一部ニ付五錢割引郵稅半額

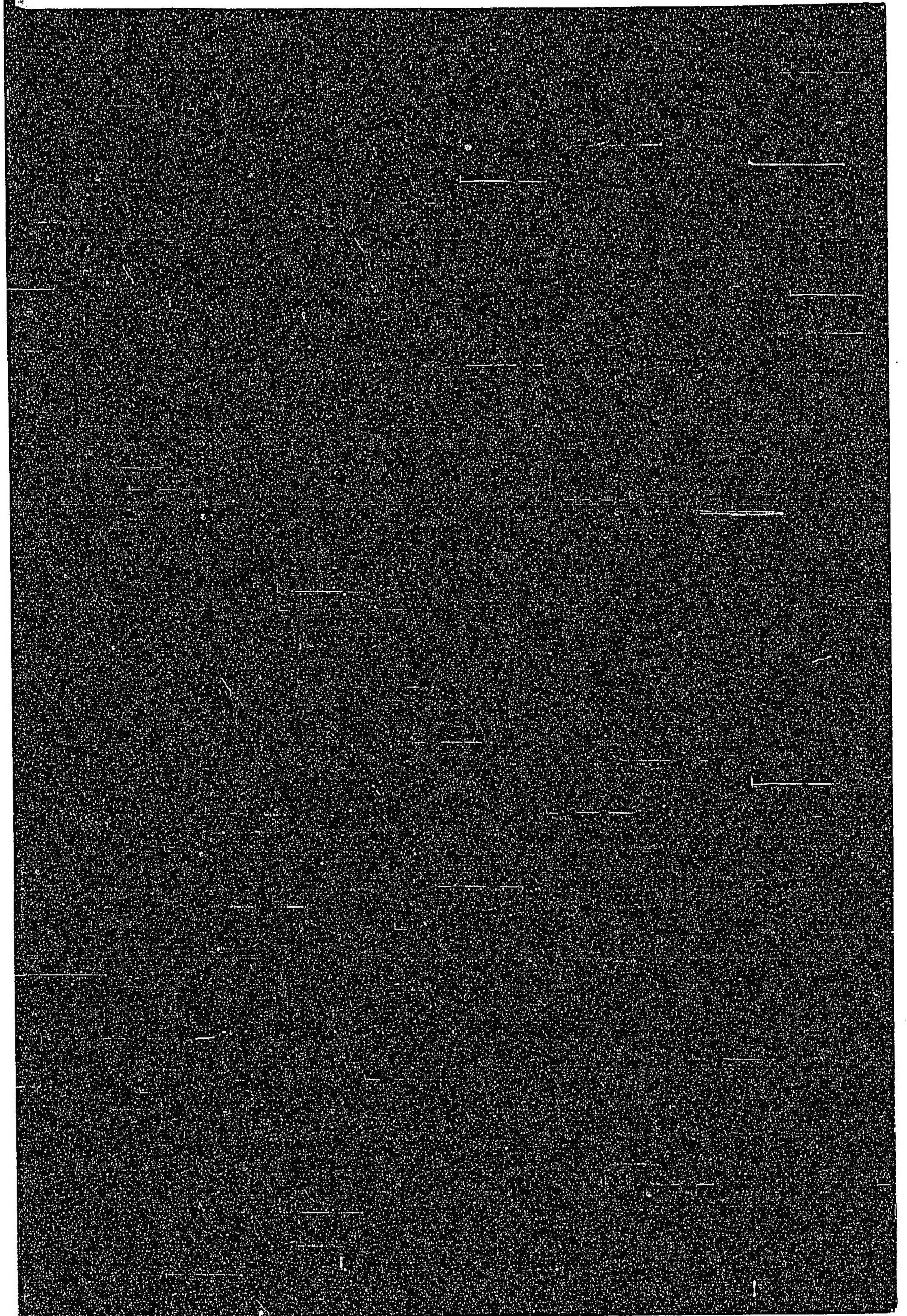
◎法典便覽全書特色

- 一、我カ法典殊ニ民法及商法中幾多ノ準用條文アリ看讀ノ際一々之ヲ繰見スルハ甚ク煩雜ニシテ而モ準用條文ニ於テ更ニ準用セル條文アルニ至リテハ獨リ煩雜ノミニ止マラス遂ニ之ヲ閑却スルニ至ル之レ本書ハ準用條文ヲ一々叮嚀ニ特載セシ所以ナリ
- 一、法律ノ精神ヲ正確ニ理解セント欲セハ法律ノ比較研究ニ俟タサル可カラス之レ本書ハ外國法並舊法ヲ論理的ニ比較對照セシ所以ナリ
- 一、法條ノ確定的意義ヲ了解セント欲セハ宜敷至高法院ノ判例ヲ參酌セサル可カラス之レ本書ハ大審院判決ヲ各條ニ付キ論理的ニ挿入シ尙之ヲ補フ爲重要ナル民刑局長回答、法曹會決議及外國裁判所判決ヲ參照セリ
- 一、本書ノ名ハ一ノ法典便覽ナルモ其實ハ好箇ノ一著書タリ
- 一、本書ノ價金ハ頗ル低廉ニシテ殆ント實費ニ近シ



336  
28







336  
28

035911-000-4

336-28

刑法典

帝国成法会

M44

BBP-0508





32 9.1